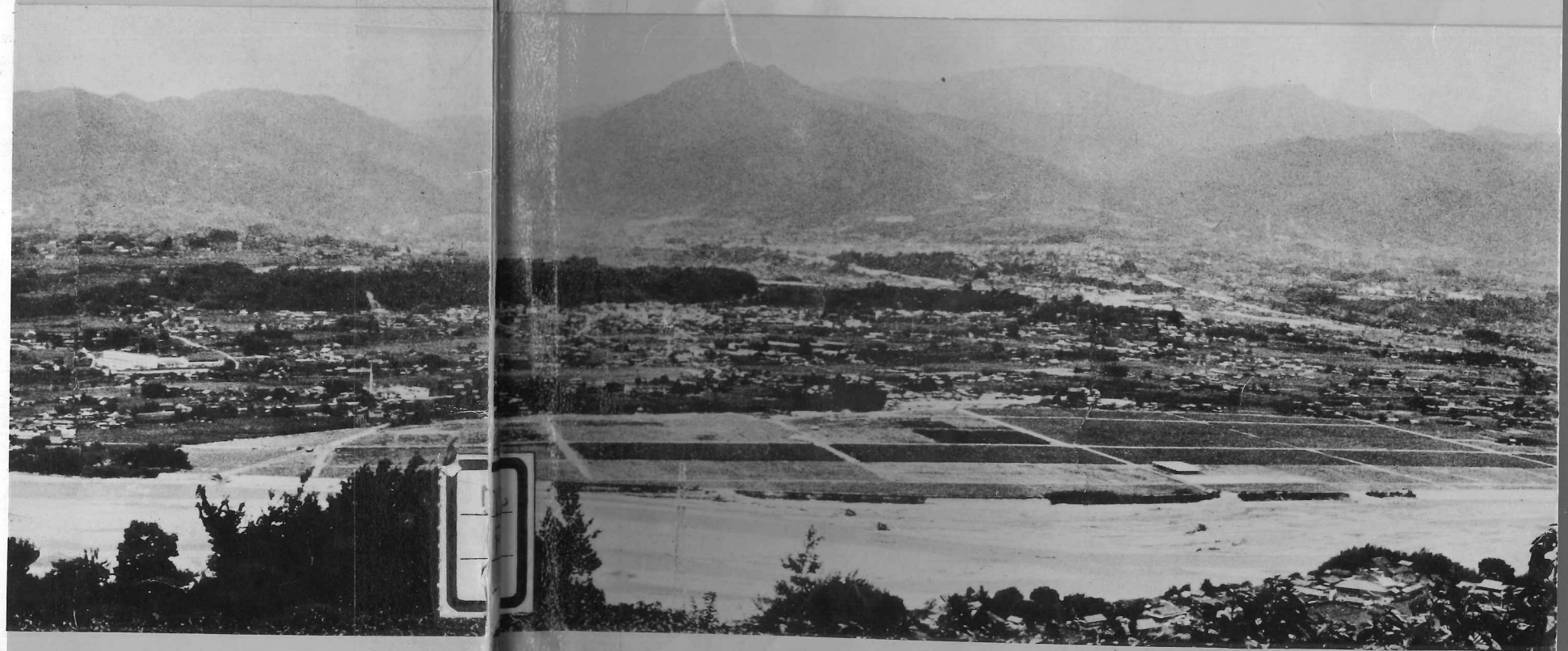


復興の記録

36.6 梅雨前線豪雨災害



発刊のことば

「36.6梅雨前線」豪雨災害をうけてから満3年を迎えました。

思えば被害総額200億に達する有史以来の大災害ではありましたが、幸い関係各方面のご協力とご指導と更に郡市民各位の力強い復興意欲の結集により今日改良復旧工事もほぼ完成の段階に至りましたことは誠にご同慶にたえないところであつて厚く感謝の意を表すると共に、犠牲者の方々のご冥福を心からお祈りしたいと思ひます。

ここに災害復興記録の発刊に当り、再びあのような大災害の起こらないことを念願いたしてやみません。

昭和39年9月

飯田市長 松井卓治

下伊那郡町村会長 三石善雄

もくじ

まえがき

土木編

伊那谷の概要と災害

1. 流域の概要 3
2. 災害について 3
3. 災害の発生と復興 5
4. 工事の進捗 6
5. むすび 9
〔被災と竣功の写真集〕 11

上伊那郡の災害

1. 被害の概況 21
2. 復旧の状況 21
3. 主なる箇所の被害と復旧状況 22
4. 集団移住 24
〔被災と竣功の写真集〕 27

農業編

1. 被害状況 35
2. 緊急対策 36
3. 災害復旧対策事業 36
4. 農業災害復旧のあとをかへりみて 44
〔被災と竣功の写真集〕 45

林業編

1. 治山関係 49
2. 林道関係 51
3. 林産関係 52
4. 国有林関係 55
〔被災と竣功の写真集〕 57

文教社会編

1. 概況 63
2. 文教施設災害と復旧について 64
3. 飯田市の社会教育施設の被害と復興の状況について 68
4. 災害救助法等厚生福祉について 69
5. 商工関係について 76
6. 建築関係について 81

天竜川水系災害対策補償交渉について 82

〔被災と竣功の写真集〕 84

編集後記

土 木 編

伊那谷の概要と災害

1. 流域の概要

伊那谷は「暴れ天竜」を幹川とする大小60余支川により構成され、天竜川はその源を諏訪湖に発し、中央南両アルプスの間を南流し、上伊那郡に於て、三峰川太田切川、中田切川等20余支川を合流し、その河状は水源部とは一変し、河中広く、流出する土砂は甚だ多く、幾多の狭穿部を経て、更に南下し、河状はますます荒廃し、下伊那郡に至り、左支小渋川、右支片桐松川を合流し、水量、土砂量、川巾をも増加し、飯田市に至って右支飯田松川を合せ、更に南流して天竜峡に至る。流域面積は天竜峡で2,658キロ m^2 、流路延長88 kmである。

伊那谷は地形的には、西駒ヶ岳、南駒ヶ岳を代表とする中央アルプス、東駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、赤石岳を代表とする南アルプスの標高3,000m級の両山脈にはさまれた南北に細長い谷で、その中央を流れる天竜川は典型的な羽状流域をなしている。伊那谷は天竜川に沿って比較的大きい河岸段丘と数ヶ所の狭穿部の存在が特徴であって、この段丘上に都市集落が発達し、鉄道路路が走っている。

地質的に見ると日本列島の中央構造線が大鹿分杭峠から鹿塩川、小渋川、青木川、上村川、遠山川、八重河内川、小嵐川を経て南信濃村青崩峠を通り、この線の東側は粘板岩、硬砂岩、輝岩で、西側は花崗岩、花崗片麻岩で構成されている。この為東側は風化浸しよくに弱い、この流域の支川は例外なく多量の土砂を流出している。西側花崗岩の風化もまた著しく、その上河川勾配は甚だ急で土石の流出は著しい。山林について見ると、森林の占める割合はきわめて大きく、流域面積の70%以上である。しかしながら中央アルプスの花崗岩、禿嶺地および南アルプスの大崩壊など山地荒廃率は19%に達し、全国平均11%をはるかにこえている。

(1) 小 渋 川

小渋川は水源を南アルプスの主峰赤石岳に発し、北

西流して山間峡谷を通り大河原にて若干開けるが、青木川、鹿塩川と合流し、更に四徳川を合せ天竜川に注ぐ。

地質的に鹿塩川、青木川を通る中央構造線があり、流域が急しゆんで荒廃地が多く、本川上流部、塩川などは流出土砂量が甚だ多く、天竜川上流の土砂供給量の3分の1に達している。

(2) 片 桐 松 川

念丈岳に源を発し、天竜川支川に於ても、最も急流な河川に属し、その勾配は平均7分の1に達し上流部に於ては5分の1と、天竜川右岸に流入する滝のような急流河川である。流出する土砂は粒径が大きく、かつ未改修河川で流路が定まらず今後工法的に他の河川と比較検討の必要があると思われる。

(3) 飯 田 松 川

片桐松川と同じ念丈岳に源を発し、比較的緩流に属し、早くから砂防河川としての改修工事が進められて来たため、他の河川に比較し安定した河川といえる。

2. 災害について

(1) 気 象 状 況

天竜川全流域にわたって未曾有の大惨事をひき起した昭和36年6月27~30日の洪水は、所謂「梅雨末期の豪雨」に起因するもので、本川下流部においては既往最高水位をはるかに突破する大洪水となった。

既ち、6月25日本邦東方洋上にあった太平洋上の高気圧が南に張り出したため、梅雨前線は南下し、本邦南岸ぞいに停滞したので、本流域にも断続的な、かなりの強雨が降り始めた。26日四国南方海上の熱帯性低気圧の北上につれて、停滞前線も北上し、翌27日には台風6号が中部地方に接近、四国南方海上の低気圧の北東進と相俟って南方からの温暖気流が流入したために近年稀にみる豪雨を記録した。

この前線は引続いて本州の大半を覆ったが、30日、関東はるか東方洋上の太平洋高気圧が張り出すに及んで前線もようやく北上し、六日間にわたるさしもの豪

雨も終息した。

(2) 降雨記録

2) 一 降雨状況

梅雨前線の停滞に伴って23日から降り始めた雨は断続的であったが、6号台風の接近と共に27日1時頃から次第にその強さを増し、27日正午頃時間雨量 5~35ミリの強雨となり28日未明まで約30時間にわたり断続した。その後幾分弱まったが引続き時間雨量 2~10ミリ程度で30日までの連続雨量は天竜川上流々域の南西部500~860ミリ、南東部500~600ミリ、中央部 400ミリ

北部300~400ミリ程度で既復最大連続雨量をはるかに上回る降雨となった。

(3) 出水記録

3) 一 出水概況

23日から26日までに梅雨前線の停滞に伴って100~150ミリの前期降雨があったため流域は充分な吸湿状態にあり、各観測所の水位は26日夕刻に指定水位(通報水位)になりつつあったところ、27日1時頃から次第に降雨はその強さを増し、28日未明まで継続した。その降雨がほとんど直接流出し、出水の因をなした。

| 観測所名 | 日 雨 量 | | | | | | | | | 連続雨量 | 既往最大日雨量 | | 既往最大連続雨量 | |
|--------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------------|---------|----------------|----------|--|
| | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 年月日 | | 雨量 | 年月日 | 雨量 | |
| 伊 那 里 | 3.4 | 34.4 | 14.0 | 46.0 | 249.9 | 40.0 | 34.0 | 20.0 | 441.7 | S25 6/17 | 175.0 | S13 7/1~5 | 290.0 | |
| 赤 穂 | 5.3 | 36.0 | 13.2 | 69.4 | 155.5 | 39.5 | 33.8 | 18.9 | 371.6 | S20 10/4 | 134.0 | S25 6/8~11 | 239.0 | |
| 諏 訪 | 11.6 | 18.6 | 11.6 | 38.5 | 88.8 | 111.4 | 34.9 | 52.3 | 367.7 | S20 10/4 | 156.5 | S20 10/1~5 | 203.5 | |
| 沢井(大鹿) | 4.4 | 27.2 | 23.7 | 42.2 | 272.1 | 61.0 | 32.6 | 18.8 | 482.2 | S34 8/13 | 163.5 | S25 6/8~14 | 381.6 | |
| 飯 田 | 3.8 | 29.0 | 20.5 | 72.3 | 325.3 | 52.5 | 27.6 | 32.7 | 563.7 | S20 10/4 | 209.7 | S25 6/6~14 | 358.5 | |
| 平 岡 | 1.0 | 16.5 | 40.0 | 50.5 | 212.7 | 96.0 | 43.0 | 0.0 | 467.0 | S34 8/13 | 155.0 | S28 7/16~20 | 448.3 | |
| 恵 那 山 | 4.0 | 35.0 | 30.5 | 110.0 | 429.0 | 135.0 | 104.0 | 15.0 | 862.0 | S32 6/27 | 250.0 | S32 6/26~28 | 303.0 | |
| 市 田 | 2.7 | 29.9 | 18.0 | 68.5 | 346.3 | 51.8 | 25.4 | 28.7 | 571.3 | S26 10/4 | 200.6 | S25 6/8~13 | 362.0 | |

主要地点の水位流量表

| 観測所名 | 計画高水位 計画高水流量 | 最高水位(流量) | | 既往最大水位(流量) | |
|------|----------------------|----------|----------------------|------------|----------------------|
| | | 月 日 時 | 水位流量 | 年 月 日 | 水位流量 |
| 釜口水門 | 295m ² /S | 6.29.19 | 251m ² /S | S25.6.11 | 261m ² /S |
| 西 町 | 3.21m | 6.29.9 | 1.55m | 23.6.20 | 2.99m |
| 沢 渡 | 3.14m | 6.28.6 | 2.35m | 20.10.5 | 2.51m |
| 下 平 | 4.65m | 6.28.7 | 2.74m | 26.7.15 | 3.15m |
| 宮ヶ瀬 | 5.02m | 6.28.5 | 5.22m | 25.6.11 | 4.85m |
| 市 田 | 5.88m | 6.28.6 | 5.90m | 32.6.28 | 4.75m |

今回の出水は小渋川合流点から上流部では、既往最高と同程度の出水となり、28日6時~7時にピークとなった。下流部においては既往最高水位を突破し、28日5~6時にピークとなり5時~7時頃から各所において破堤した。

主要地点における最高水位最大流量の関係は前項上表の如くであるが、改修区域下流部においては異常出水のため主要観測地点における量水標は、ピーク前5~6時間頃より相次いで破損流失の憂目を見、最高水位の観測は不能となった。高水直後の洪水痕跡調査に

よれば天竜峡において、20米30種を示し、既往最高水位16米を大中に上回っている。

3. 災害の発生と復興

伊那谷は、地形的にも又、地質的にも災害の発生する要素が多分に含まれていた。6月に入ってから雨らしい雨は殆んど降らず水不足が深刻となっていたので23日から降り出した雨は茲雨として喜ばれたのであるが、26日からの集中的な豪雨は、前記した様に27日には恵那山に於て429mmの日雨量を記録し、天竜川的主要観測所は量水標の破損流出により観測不能という状

態に至り、各地の災害は26日、27日と別項に示す様な被害が続出し、29日に至り大鹿村大西山の大崩落により、この集中豪雨の災害は一層の惨状を示すに至った。天竜川は建設省に於て昭和22年より、改修工事を進められて来たのであるが、既往の洪水をはるかに上回る出水になったので従来の改修計画を変更しなければならぬ必要が生じた。この豪雨による被災は川路、松尾、座光寺、吉田の広瀬部において乱流、犯濫し惣兵衛堤防を始めとする殆どの堤防が破堤、欠壊し被災概要は下記の通りとなった。

天竜川工事々務所管内災害復旧費

| 破堤ヶ所 | 欠壊ヶ所 | 破堤延長 | 欠壊延長 | 総延長 | 金 額 |
|------|------|-------|-------|--------|-------------|
| 15 | 32 | 4,200 | 7,625 | 11,825 | 1,373,797千円 |

また小渋川、片桐松川及び飯田松川等各支川の災害は、以前より砂防河川として改修工事の進められていた飯田松川を除き、他の河川はほとんど原型をとどめず野底川、大島川、鹿塩川等に於いては、人畜、家屋等に莫大な被災を受け、堤防、護岸は全面的に改築せざるえぬ状態に至った。

道路、鉄道は各地に於て、土砂の崩落、河川の出水により寸断され、また橋梁の流出も数多く、全くの交

通不能の状態となり、社会的不安もその極に達したので、交通確保を急務と考えて災害続出の最中より応急工事を始め、飯田市から上伊那郡に連絡する道路を自衛隊等の協力を得て6月30日に、またその他の道路も8月上旬には交通を確保できるまでとなった。

その後8月13日には建設省の査定も終わったので、9月上旬には本格的な復旧工事に着手するに至った。被災概要は下記の通りである。

昭和36年災害による復旧事業の総統計表

一表 飯田建設事務所

| 災害復旧工事 | 県 工 事 | | 市 町 村 工 事 | | 計 | |
|----------|-------|-------------|-----------|-------------|-------|-----------|
| | ヶ所 | 金 額 | ヶ所 | 金 額 | ヶ所 | 金 額 |
| | 725 | 7,364,059千円 | 775 | 1,255,647千円 | 1,500 | 8,624,172 |
| 災害関連事業 | 14 | 448,161 | 5 | 87,542 | 19 | 575,703 |
| 災害復旧助成事業 | 2河川 | 264,112 | | | 2 | 264,112 |
| 緊急砂防事業 | 48ヶ所 | 1,514,000 | | | 48 | 1,514,000 |

飯田都市計画水害復興城東地区区

画整理事業 1ヶ所 289,304千円

合 計 1,570ヶ所 11,267,291千円

二表

| 区 分 | 原 決 定 | | 38年度迄竣功額 | | 39年再調査 | |
|-----|-------|-----------|----------|--------------------------|--------|---------------|
| | ヶ 所 | 金 額 | ヶ 所 | 金 額 | ヶ 所 | 金 額 |
| 河 川 | 319 | 4,193,596 | 276 | 5,094,264,148 (90.2%) | 331 | 5,592,523,114 |
| 砂 防 | 28 | 418,518 | 22 | 443,352,602 (96.6%) | 28 | 458,503,873 |
| 道 路 | 311 | 906,956 | 276 | 663,779,274 (63.6%) | 313 | 1,032,608,942 |
| 橋 梁 | 53 | 170,733 | 46 | 177,814,725 (88.5%) | 53 | 197,850,438 |
| 計 | 711 | 5,689,803 | 621 | 6,378,210,749 (86.7%) | 725 | 7,281,486,367 |

| 市町村工事 | ヶ 所 | 金 額 | ヶ 所 | 金 額 | ヶ 所 | 金 額 |
|-------|-------|-----------|-------|--------------------------|-------|---------------|
| 河 川 | 187 | 1,273,670 | 154 | 698,158,075 (95.5%) | 160 | 725,445,745 |
| 道 路 | 516 | 304,599 | 463 | 309,076,727 (87.3%) | 509 | 352,098,773 |
| 橋 梁 | 100 | 146,135 | 94 | 162,892,690 (93.1%) | 106 | 178,103,051 |
| 計 | 803 | 1,724,404 | 711 | 1,170,127,494 (92.9%) | 775 | 1,255,647,569 |
| 合 計 | 1,514 | 7,414,207 | 1,332 | 7,548,338,243 (87.6%) | 1,500 | 8,537,133,936 |

4. 工事の進捗

今回の災害は、全国的にも稀な災害であり、又長野県にとって初めての大災害であったため、工法的にも施行方法に於ても、又事業量の急増により、他県及び県内各所より多くの応援を得ねばならないという幾多の困難があったが、36年度28%、37年度38%、38年度の22%を施行し、39年度に12%程を残すのみとなった

(1) 応急復旧

復旧の方針としては、台風期を前にして民生の安定交通の確保及び再度災害の抑制を当面の骨子とし、最も早くできる工法をとらねばならざるをえなかった。

又前記のとおり、道路は全面的に交通不能の状態であり、資材、食糧等運搬のため、主要道路の交通確保に管内、管外各地の建設業者、自衛隊、県の全機動力を集中した。

また河川の出水、増破に対処するため、県内外より麻袋、土俵、蛇籠等の資材確保に努めた。

応急復旧は県内外の応援を得て、不眠不休で続けられ、8月上旬には河川、道路とも応急工事が終了し、ようやくにして民心も安定し、本復旧に傾倒出来る状

態となった。

(2) 本工事の復旧

災害復旧本工事は災害復旧費の査定から始まる。被害直後の災害調査、応急工事の施行と平行して査定準備が進められ、8月3日に始まった緊急査定は8月13日に終了した。時を移さず工事実施の準備が進められ、9月の21日には大規模災害を皮切りに入札、次々と工事が発注された。またこれと並行して最終査定一本査定の準備を進め、12月10日から12月22日の間にこれを完了。本格的に工事に取り組む段階に達した。

以後3ヶ年、速かに復興を完了すべく日夜を分たず努力中であるが、この莫大な工事を如何にして処理するか。そこには色々な困難や、問題点が横たわっていた。

- ① 36年の台風期、37年の梅雨に具えてスピーディーな復旧が行なわれなくてはならないが、タイムリーに復旧予算が確保出来るかどうか。
- ② 建設資材が十分に間に合うかどうか。諸資材及び輸送力
- ③ 郡市内外の建設業者のみで早期復旧に対応出来る

るかどうか。

- ④ 工費用労力を如何にして確保するか。
- ⑤ 再度災害を被らない工事をしなければならない
- ⑥ 設計をどのようにして立て、どのようにして監督するか—技術者の不足
- ⑦ 他官公署、諸団体との工事の調整。
- ⑧ 荒廃した河川の水源部を如何にして治めるか。
- ⑨ 工事途中の災害に如何にして対処するか。
- ⑩ 工事用地の取得がスムーズに行われるかどうか
- ⑪ 被災者の要求、関係市町村の要望を如何にして受入れるか等々。

これらの問題は被災直後から今日まで終始復旧事業につきまどっていたが、其の時、その場に応じて処理され、今日90%以上の進捗を見たわけである。

これらの問題点も到底すべてを述べる紙面もないが概略述べてみたい。

災害復旧工事はスピーディーに処理完成させなくてはならない。いわゆる3、5、2の比率で緊要工事を完成させ、39年度中には全工事を完成させるよう計画された。緊要工事の30%といえは20億、50%といえは40億円の巨費である。この程度の復旧費がなくては、来るべき台風期、融雪期、そして37年度の梅雨出水の被害から免れないことは自明の理ではあっても、果して国から予算が来るかどうか。

結果的には3、5、2の比率で予算が確保され今日の復興を見たのであるが、途中においては、かなりピンチに迫られたこともあり、郡市の大変な努力と、国の厚い同情があったことを見のがすことは出来ない。さて予算は上述のようなわけであるが、特に初年度において20億円の巨費を約半ヶ年で消化して復旧工事を行うことが実際に可能かどうか。郡内外の建設業者だけの手に負える代物であるかどうか？不可能という結論よりない。必然的に県外建設業者を導入することになった。

34災で長野県の復旧工事を請負って、ソロバンの合わなかった県外業者等もあって、おいそれとは入って来ない。この時は、県の小林土木部長自ら東奔西走、

ようやくして導入している。大中建設業者合せて10社程が復旧工事に参加した。

巨大な工事を短期間に行うため、これら建設業者は伊那谷では今迄に見たこともないような重機械を続々と投入した。郡内建設業者もこれに少からず刺激され機械施工に踏切った。

今回の災害復旧工事の施行は殆んど重機械が活躍しモッコとツルハシに代表されるかつての遅々たる建設工事から、スピードある建設工事へ移行した。

建設機械の大巾な使用が今回の復旧工事をかくも速かに押し進める重要な要素となったことは確かである

建設資材が急激な需要の増大に間に合えるかどうかの心配も大きかった。幸い砂利、砂は災害激基地に近い天竜川、小渋川が供給してくれるので問題はないとして、積石の数には限度がある。不足を補うためコンクリート積ブロックを大量に使用することとなり、県内外から数社を導入、天竜川附近に製作工場を設けさせ速かに製産態勢をとるよう要請した。

セメントについては、需要が急激に増したため、思わぬ事態を招き非常な苦勞をしたものである。

工事の大半の発注も終り、建設機械が活動を始め、県外からの労力も目鼻がついて、いよいよこれから道路、堤防の形が作られるという時期、即ち37年の1月に入るとセメントの入荷が急に減少、2月に入るとストックも底をついて、工事ストップという最悪事態を考えなくてはならぬピンチに迫られた。

県はセメントメーカーを東京に招集し出荷を数次にわたって強力に要請し、入荷の見通しがついたところ国鉄飯田線の輸送力が貧弱のため臨時荷物列車の編成を要請するなどの手を打って、順調に入荷するようになったのは3月に入ってからである。背に腹は変えられず、東京、名古屋方面からトラックで輸送するなど建設業者も亦大変な努力を払ったものである。

このようにして37年の4月には部分的ではあっても河の形が整い、堤防が出来、道路が復旧して、打ちひしがれた伊那谷の人達も元気づけられ、生気を取戻して来たことは確かである。工事現場には土木機械が物凄い唸り声を立て、道路には大型ダンプトラックが狂

気の如く砂塵をもうもと立てて走り廻る。天竜川では砂利採取機が不断に騒音を立てている。全く伊那の天地をゆるがすばかりの状況であつたが、当時これを建設の槌音と聞いたことを思い出す。

次に工事の設計、施工上の1、2の問題点を拾ってみよう。

復旧工事に着手して以来、天候にはまことに恵まれて、工事の進捗は所期の目標通り進んだ。不幸にして工事途中大出水があつたならば如何なる事態が発生したのだろうか。重傷患者に更に打撲を加えるに等しい。被害の増大は火を見るよりも明らかである。県は緊急防災対策費を計上、37年、38年の両年度で500万円程度の防災工事を行っているが、これとても大出水を防ぎ切れる程度のものではない。殆ど出水らしいものに合合わなかつたことは正に天裕神助という外はない。

しかしながら今日までの復興は手を拱ねていてなされたものではない。

1日も速かに復旧されるため、あらゆる努力がなされた。工事中の災害に見舞われないためにも、1日も早く、1米も多く堤防を築くことが急務である。ここで打たれた手は、県が予算外義務担当行為を行って、工事を進捗させたことである。例年3月末でその年の工事は終り、次年度は早くとも6月にならなくては工事が始まらないのが普通である。しかし3月末から梅雨期にかかる6月末頃までは気候的に工事の最適期である。この時期に工事が続行出来るようにしたのがそれである。

近時の土木工事は機械化されている。つまり機械が休なく動くことが工事のスピード化を保証する。又県外から入った大中建設業者が、年度変りで工事がなく、工事最適期に慢然と遊んでいるようなことは、又機械化されているだけに不経済極まりないことである。県内の建設業者についても亦然り。

即ちこれによつて36年9月未着工以来復旧工事は切れ日なく継続し得、工事の進捗に寄与するところ甚だ大なるものがあつた。

今回の災害復旧工事は極めて多方面と関連していて連絡調整には非常な配慮が払われた。耕地、林務、治

山関係、国鉄飯田線、営林署、建設省直轄工事、電報電話局の電話線、中部電力株式会社、更には市町村の水道等と密接な関連があり、脱落、重複をさけるために度々の連絡会議が持たれた。

今回の災害復旧を契機に再び災害のない楽土を建設することこそ郡市民の要望であつた。

年々日本を見舞う災害による出費は1千億円程度である。道路が悪い。住宅が足りない。上下水道がない等公共施設が完備されない一番の理由は、こういう出費にある。と同時に、とくに公共事業投資の遅れた地域にあつては、災害のたびに公共施設が破壊され易く非生産的な出費を余儀なくされる原因をなしている。

このような因果関係から免がれて、再び災害の起らない伊那谷を建設し、公共投資の受入れ基盤を作ることこそ郡市民の要望であつた。

災害復旧事業には原形復旧という大原則があつて、今回の伊那谷災害も例外ではない。しかし、河川、道路等が一定の区間、大部分が被災した場合、一定災といつて改良を加えた工法が許される。鹿塩川、小渋川、野底川、大島川、蛇川、茂都計川等の復旧工事がそれである。

大部分は被災しないけれど改良を要する被災河川には河川助成費一飯田市王竜寺川、高森町大沢川一。河川砂防関連費一胡麻目川、谷川、飯田松川、毛賀沢川、芦部川、寺沢川等一が加えられた。道路、橋梁に対しては、松川町生田の飯田茅野線、飯島飯田線の土曾川橋等に道路橋梁関連費が加えられた。

被災前の河川が川巾も極めて狭く、屈曲が多く、大洪水を流し得ないことは明らかである。36災以上の降雨があつても安全に洪水を流しうる河川に改良されたのである。これらの河川は勾配を緩めるため堰堤を入れた。被災しない土地を削つたりして屈曲を直した。民有地を買上げて川巾を拡げた。今まで堤防のなかつた部分にも堤防が築かれた。今迄の木橋は永久橋に変わった。鉄道橋も新しい川巾に応じて長く架替えられた。こうして各河川とも見違えるばかりに生れ変わった。こうして各河川とも見違えるばかりに生れ変わった。少々の豪雨、洪水にはビクともしない堤防が出来あがつた。

しかしながらこれですべて安全であるかどうか吾々の眺める四囲の山々の崩壊面は合変らずである。水源部近くには、まだかなりの推積した土砂が貯蔵されている。これを治めて初めて万全といえる。山腹崩壊による土砂を一举に河川に流入せしめないため、建設関係の緊急砂防堰堤が、災害激基地の各河川に1~3本づつ入れられている。合計約50本、15億を投じている。其の他治山関係の治山対策も進んでいるが、崩壊面が一日も早く伊那谷から姿を消すことを祈りたい。

最後に設事務所が如何にしてこの災害に取組んだかについて述べてみたい。

被災直後、水防、被害調査にくたくたに疲れた身体で休養を取る暇もなく8月3日から始まる緊急査定準備に取組まざるを得なかつた。8月13日には緊急査定終了。2日程休養。8月1日に特設された災害復旧課がいよいよ本格的に復旧工事に取組むことになつた。査定設計を手直して実施の設計を立てる。1日も早く工事の発註に漕ぎつけるべく不眠不休の活動が始まつた12月の初からは本災害の最終査定があつた。この準備も大変であつた。そして査定が一応終つたのが12月22日。年末年始の休暇に入って、ようやく吾が身に還つて娑婆の空気とうまさを喰みしめてみたものである。

36年7月から同年12月までに建設省から11人、他県から32人延べ2,300人の応援技術職員を得ている。

12月末応援技術者が去り、建設事務所の職員で一切を切廻さなくてはならなくなつた37年1月からは一層過重な作業を余儀なくさせられた。しかも3ケ年という長期間である。

大体全国平均の技術職員1人当りの年間事業量は平均2千万円程度であるが、建設事務所では36年度、37年度が約9千万円、38年度でも7千5百万円程度。如何に苦しい3ケ年であつたかお分り願えると思う。

病氣療養者も出た。家庭も犠牲にした。ただ一途に復興促進に打込んで来たこれらの人達こそ、じみではあるが復興の礎であつた。

5. むすび

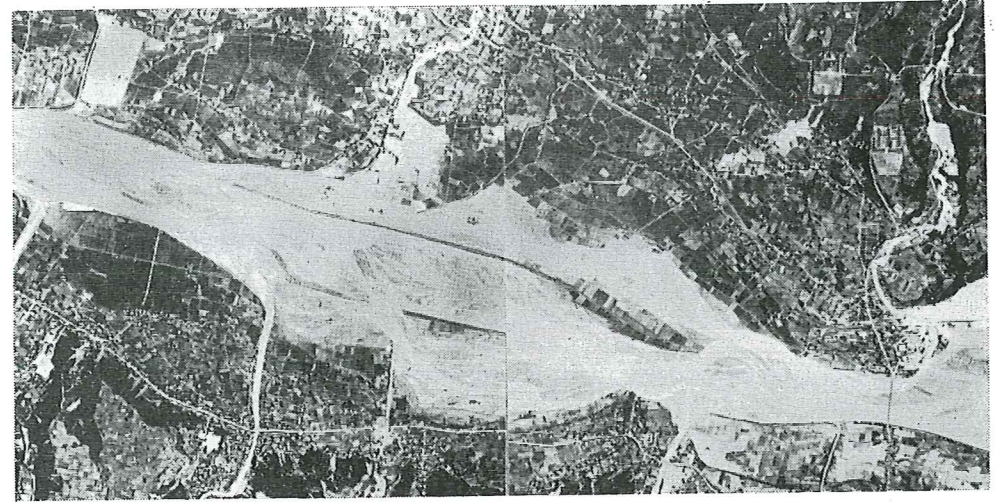
伊那谷も何時までも後進地域にあまんじているわけ

にはいかない。早く先進諸都市に結びつく近代的な道路網を完成して経済の発展を計らなければならないが幸にして各河川とも水害に驚かない立派な河川に復旧した。基盤の一部が出来たのである。

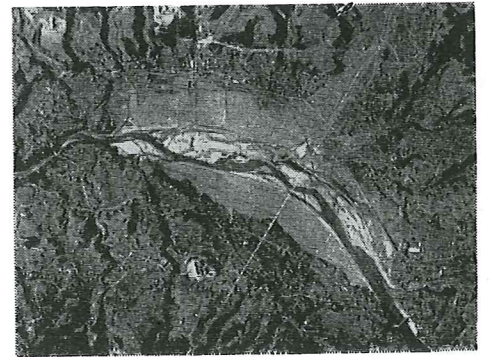
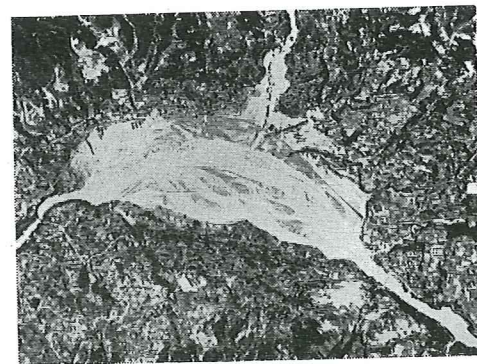
災害の犠牲は余りにも大きく一朝一夕にいやされぬ面もあるが、ここまで復興したことは禍を転じて福としたことでもあるし、更にこれが伊那谷発展の礎石ともなれば望外の喜びと申す外はない。

紙面が限られ復旧の詳細を記すことが出来ないが、数ヶ所の被災、竣功の写真を添え、被災当時を回想し、亡くなられた住民の方々、復興のため犠牲となられた方々の冥福をお祈りし、更に復旧工事のため陰に陽に御援助、御協力をいただいた方々にお礼を申しあげて筆をおくことにする。

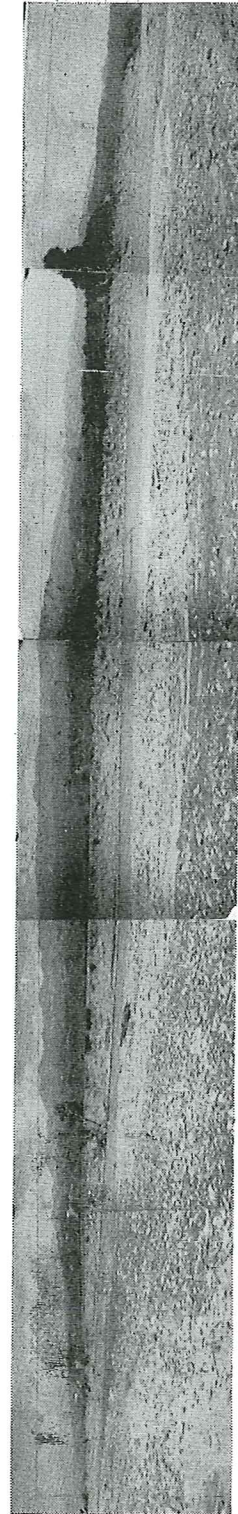
(S、39.8.10)



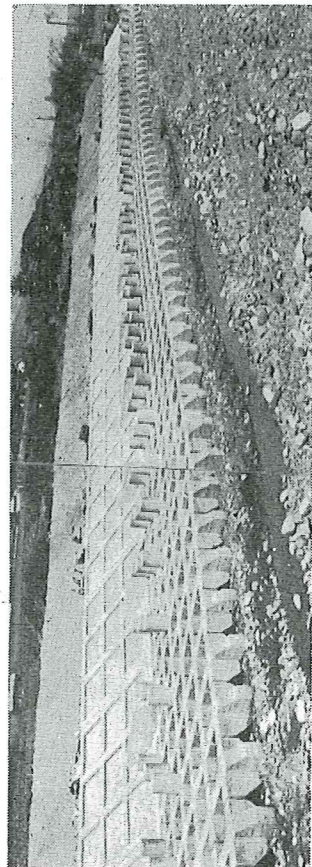
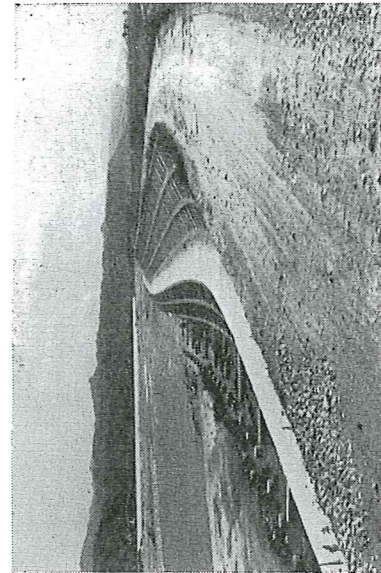
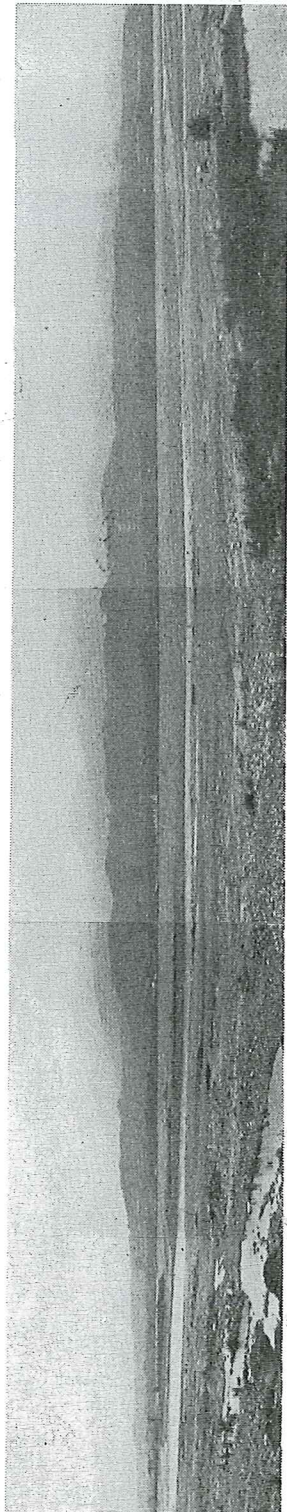
天竜川 座光寺～市田地区被災と竣工



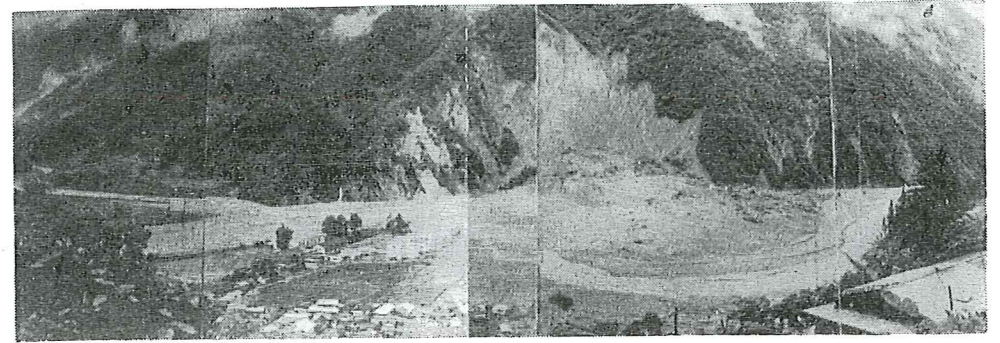
天竜川 川路地区被災と竣工



高森町 市田～下市田 被災と竣工



築堤工 L = 630m C = 1,235,994円



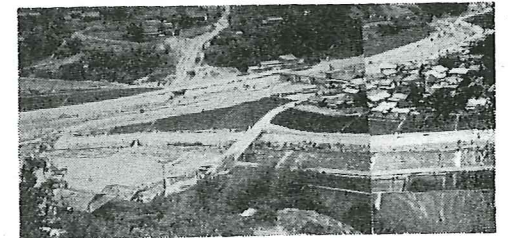
小波川 大西山崩壊と復旧



◆事業費
897,836,384円

◆工事概要

| | | | |
|-----|---------------------------|------|-------------|
| 掘削 | 1,423,453.8m ³ | 根固水制 | 1式 (六脚ブロック) |
| 流路工 | { 本川 1,742m 青木川 200.0m | 床止工 | 2基 |
| | | 重機運搬 | 1式 |



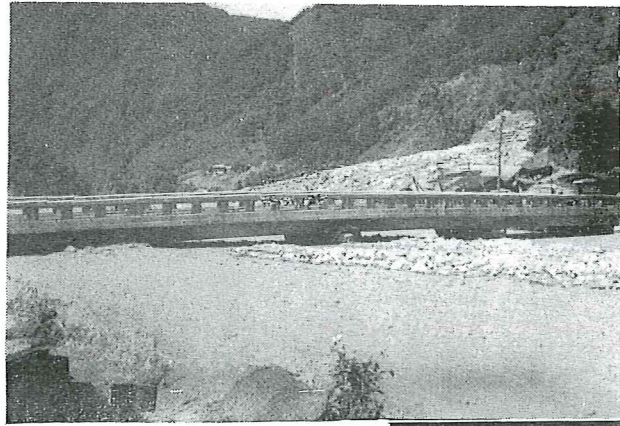
鹿塩川 鹿塩川と塩川の合流点被災と復旧

◆工事概要

| | |
|-----|--------------|
| 築堤工 | L = 5,081.8m |
| 落差工 | 13基 |
| 歯型工 | 115基 |
| 根固工 | L = 3,627.0m |

付帯工事 { 橋梁 3橋
取付道路 2カ所

◆事業費
643,665,128円



鹿塩川 鹿塩橋の異常埋堤の被災と復旧



鹿塩川 鹿塩学校付近被災と復旧



小伝馬橋付近
被災と竣工

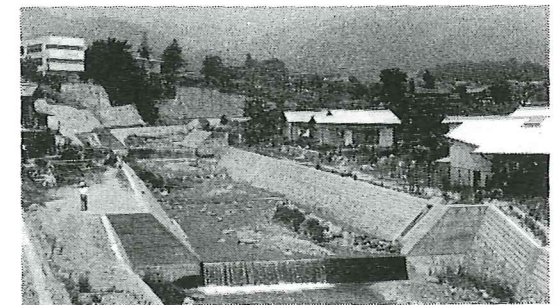


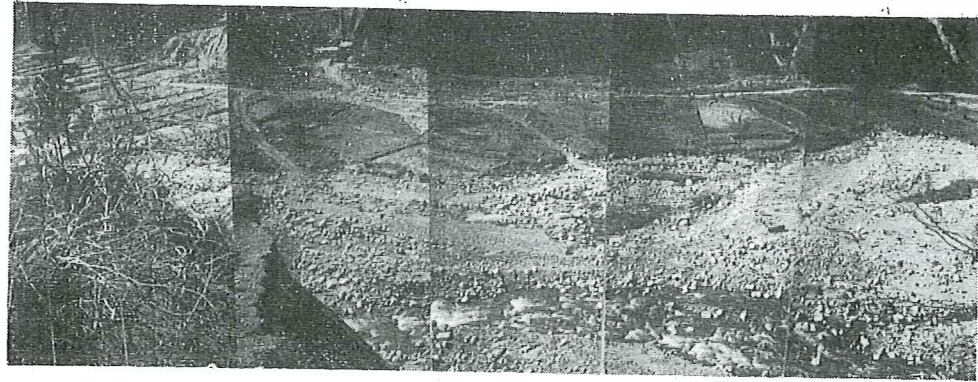
風越学校裏
被災と竣工

事業費 474,201,947円

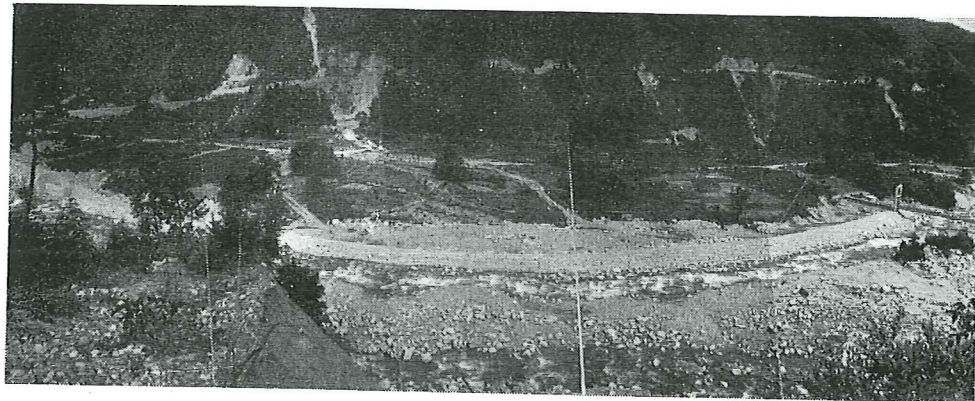
◆工事概要

護岸工 L=4,220.0m
 落差工 31基
 帯工 67基
 付帯工事 PC桁橋 3橋

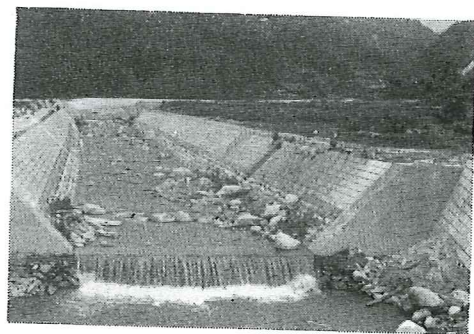
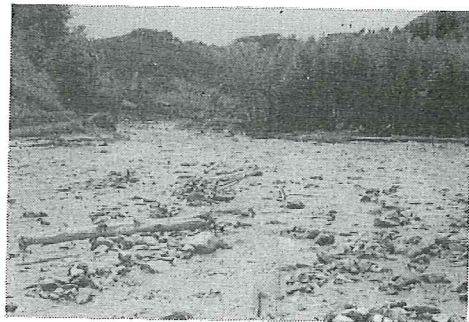




本谷川筋阿智村 中島(左岸)被災と竣工



築堤工 L=276.0m H=11~13.0m
工費 28,769,000円

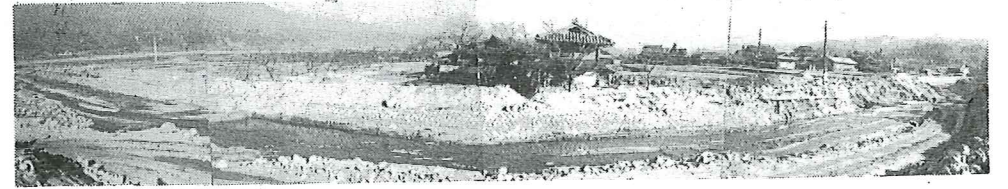


◆工事概要 間沢川 福与 被災と復旧

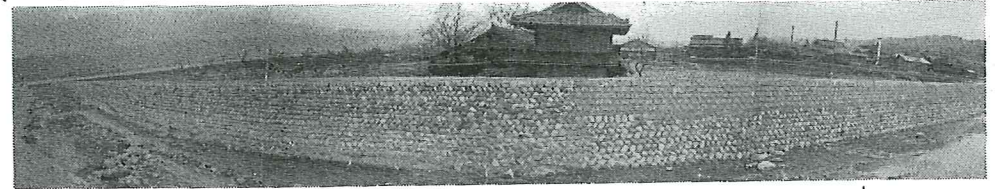
流路工 940.0m
落差工 5基
帯工 12基

◆事業費
68,732,000円

付帯工事 { 県道橋 1橋 { L=24.0
 { 町道取付工一式 { W=5.5



◆工事概要 豊部川筋 豊丘村中芝 被災と復旧

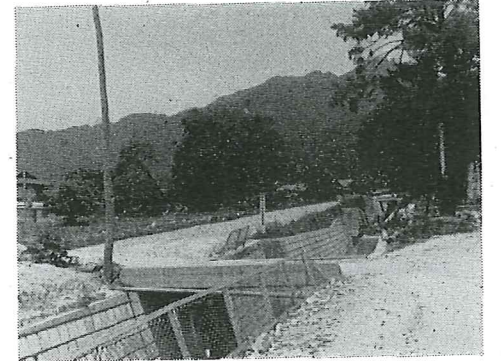


◆災害関連工事

護岸工 L=300.0m
流路工 L=300.0m
床止工 3基

◆工費

36,653,000円



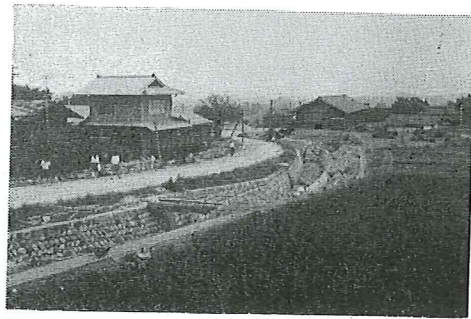
王竜寺川 今宮球場付近被災と復旧

◆工事概要

流路工 4,289m
内 { 本川 3,457.0m
 { 支川 832.0m
落差工 26基
帯工 22基
間仕切工 59基

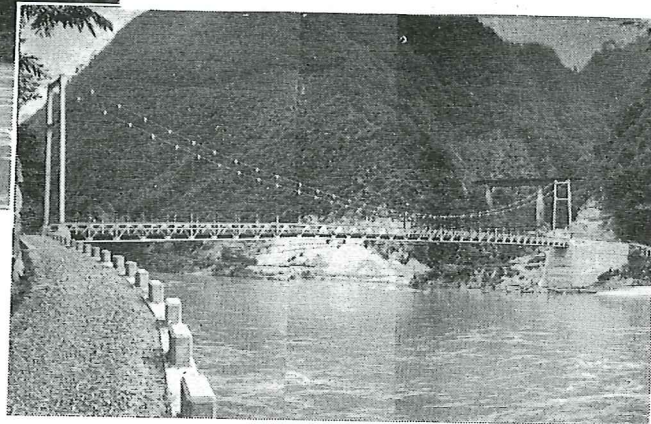
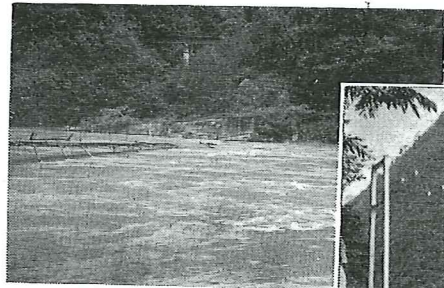
◆事業費

250,725千円
内 { 助 203,110
 { 災 47,615



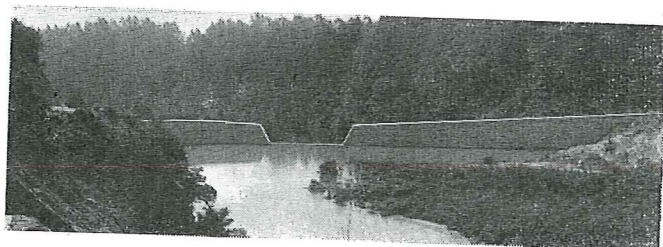
南沢川筋 伊賀良農協上 被災と復旧

| | |
|------------|----------|
| ◆工事概要 | ◆事業費 |
| 流路工 2,000m | 88,736千円 |
| 落差工 50基 | |
| 堰堤工 2基 | |



長 76.0m
巾員 2.0m
工費 8,852,000円

町道大下条第1号線 下伊那郡阿南町字竜田橋被災と竣工



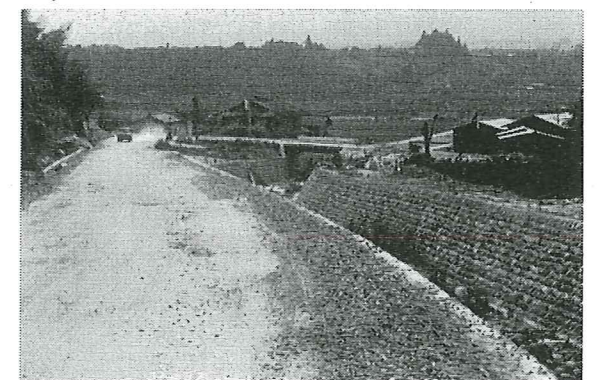
野底 姫宮堰堤

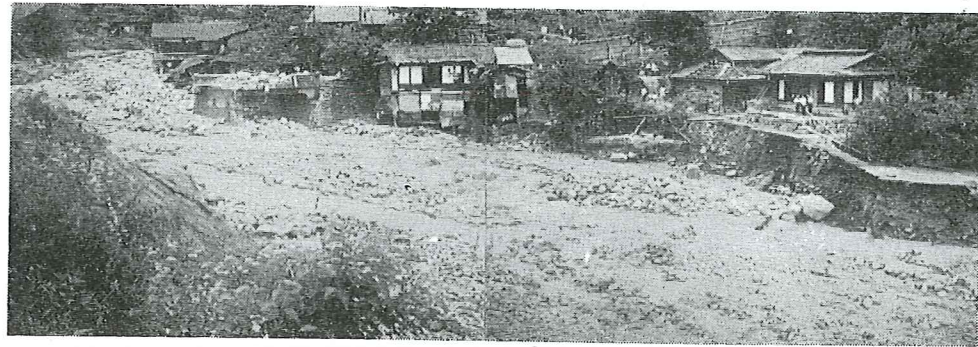
| | |
|----------|-------------|
| ◆工事概要 | |
| 高 16.0m | |
| 長 153.0m | |
| ◆工事費 | 85,692,000円 |

飯田茅野線

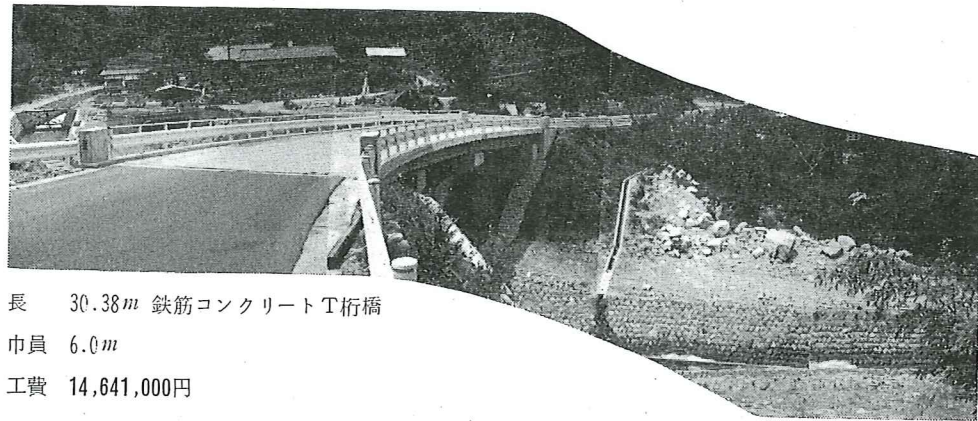


| | |
|--------------------|-------------|
| ◆工事概要 | |
| 復旧延長 2,710m | |
| 巾員 4.5m | |
| 橋梁 6カ所 (PCスラブ橋) | |
| ◆事業費 | 72,479,600円 |





県道 飯島一飯田線 高森町迫分橋 被災と竣工



長 30.38m 鉄筋コンクリートT桁橋
巾員 6.0m
工費 14,641,000円



野底川架設 上郷村道 黒田橋 被災と竣工

長さ 22.76m 工費 5,517,000円 巾員 3.6m

上伊那郡の災害

1. 被害の概況

気象の状況、降雨出水記録等については、別掲下伊那編の通りであるが、今回の災害の主たる原因は異常気象である。6月23日からの連続降雨により土中の水分が、飽和状態となったところえ前記の集中豪雨がおそい、その後もふり続いて山地は保水限界をこえ、無数の崩壊が発生した。又地質が脆弱で風化侵蝕に弱いという。悪条件をそなえていたことも大きな原因で、山地の著しい崩壊と、これに伴って各地に山津波が頻発し、これらが大量の土砂流となって流下したため各河川は破堤、又は護岸の欠壊を起し、道路、橋梁、家屋及び附近の農耕地を押し流して、大きな災害となったが、とりわけ幾多の尊い人命までも失なわれ、その災害は空前のものであった。

上伊那郡下に於ては、特に被害の激甚な地域は中川村全域と、分抗峠を分水嶺とする新宮川、全支川の百

別 表

| 区 分 | 原 決 定 | | 38年度迄竣功額 | | 39年再調査 | |
|-----|-------|-------------|----------|---------------------------|--------|----------------|
| | ヶ所 | 金 額 | ヶ所 | 金 額 | ヶ所 | 金 額 |
| 河 川 | 230 | 1,994,263千円 | 151 | (86.2%) 1,746,918,548円 | 228 | 2,024,920,211円 |
| 砂 防 | 33 | 388,002 | 31 | (96.3%) 515,846,841 | 36 | 535,443,812 |
| 道 路 | 160 | 540,247 | 109 | (70.9%) 434,813,083 | 133 | 612,542,167 |
| 橋 梁 | 25 | 112,855 | 19 | (100.0%) 86,566,548 | 19 | 86,566,548 |
| 計 | 448 | 3,035,367 | 310 | (85.4%) 2,784,145,020 | 416 | 3,259,472,738 |

| 市町村工事 | ヶ所 | 金 額 | ヶ所 | 金 額 | ヶ所 | 金 額 |
|-------|-----|-----------|-----|--------------------------|-----|---------------|
| 河 川 | 166 | 817,361千円 | 130 | (87.7%) 492,653,383円 | 150 | 561,431,383円 |
| 道 路 | 218 | 208,937 | 198 | (91.0%) 193,503,695 | 215 | 212,572,695 |
| 橋 梁 | 62 | 121,270 | 58 | (87.9%) 110,968,878 | 62 | 126,116,878 |
| 計 | 446 | 1,147,568 | 386 | (88.5%) 797,125,959 | 427 | 900,120,956 |
| 合 計 | 894 | 4,126,589 | 696 | (86.1%) 3,581,270,976 | 843 | 4,159,593,694 |

々目木川筋の駒ヶ根市中沢地区、並びに長谷村伊那里地区で、いずれも道路、橋梁等の流失により交通は遮断された。これらの被害の集中した駒ヶ根市、中川村長谷村の1市2村の被害額は、郡下の80%に達している

2. 復旧の状況

被災後は直ちに関係機関の応援をえて、被災個所の応急措置を講じ、地域住民の民生安定と交通を確保すると共に、被害を最少限度に止めるべく努めた。この間、県内外の土木関係職員の応援もえて、8月中旬建設省の緊急査定をうけ、9月中旬より緊急工事の復旧に着手した。又同年12月には残工事の査定も終り、現在迄3ヶ年鋭意復旧工事の進捗に努めたが、38年度末86.1%の進捗を見ることが出来た。

本年は7月再調査をうけ、残工事の大判は起工も終り、工事の完成を急いでいる。

復旧工事の進捗状況は別表の通りである。

3. 主なる個所の被害と復旧状況

(イ) 新宮川水系(百々目木川を含む)

この河川は準用河川で延長9,500 mあり、主なる支川は砂防河川の百々目川で、延長は5,500 mあり、いづれも山腹の崩れにより大量の土砂が流下したため破堤、護岸の欠壊等により道路、橋梁附近の家屋、農耕地を押し流し大きな災害をうけた。新宮川は延長9,

500 mのうち被災延長は7,800 mにおよび、この間県道栗沢赤穂停車場線の一部や橋梁を含んでおり、又百々目木川も被災延長は4,300 mにおよんでおり、これも県道西伊那線の一部と橋梁を含んでいる。

県工事の他に市町村工事として新宮川に唐山沢、百々目木川に新沢の2支川が大きな被害をうけた。

復旧工事は36年度より緊急箇所を選び夫々実施しているが、36年度にはこの両川の山腹の崩れが著しいので、災害復旧工事に次の緊急砂防工事を実施した。

36年度施工新宮川水系緊急砂防工事箇所表

| 河川名 | 長 | 高(有効) | 全体体積 | 本堤体積 | 工費 | 推定貯砂量 |
|----------|-------|-----------------|-----------------------|-----------------------|----------|----------------------|
| 新宮川 | 96.0m | 13.5m (10.0) | 5,221.6m ³ | 4,246.5m ³ | 50,674千円 | 84,286m ³ |
| 新宮川支 唐山沢 | 58.0 | 15.3 (10.5) | 2,081.4 | 1,660.9 | 18,446 | 21,211 |
| 〃 なき沢 | 50.0 | 13.9 (9.0) | 1,446.6 | 1,198.4 | 13,540 | 12,796 |
| 小計 | | | 8,749.6 | 7,105.8 | 82,660 | 118,293 |
| 百々目木川 | 111.5 | 11.0 (9.0) | 5,974.3 | 4,113.8 | 48,833 | 102,000 |
| 小計 | 111.5 | | 5,974.3 | 4,113.8 | 48,833 | 102,000 |
| 計 | | | 14,723.9 | 11,219.6 | 131,666 | 220,293 |

猶新宮川、百々目木川両河川の一部の地域は、農耕地のほとんどが大災害をうけ、全くの荒地と化した

ため、今後の生活等を考へ現在他の安全な地域へ集団移住を行なっている。

新宮川水系復旧状況

| 路河川名 | 原 決 定 | | 38年度迄竣功額 | | 39年度再調査 | |
|----------|-------|-----------|----------|-------------------------|---------|--------------|
| | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 |
| 新宮川 | 7 | 707,023千円 | 7 | 702,964,762円 (94.2%) | 7 | 746,276,425円 |
| 百々目木川 | 6 | 324,147 | 6 | 380,400,318 (100.0%) | 6 | 380,648,318 |
| 栗沢赤穂停車場線 | | | | | | |
| 道 路 | 18 | 39,763 | 18 | 45,216,437 (100.0%) | 18 | 45,216,437 |
| 橋 梁 | 2 | 32,418 | 2 | 30,193,513 (100.0%) | 2 | 30,193,513 |
| 西伊那線 | | | | | | |
| 道 路 | 11 | 11,247 | 7 | 7,285,820 (60.5%) | 11 | 12,028,820 |
| 橋 梁 | 3 | 6,462 | 3 | 7,217,327 (100.0%) | 3 | 7,217,327 |

(ロ) 四 徳 川

準用河川延長は、7,300 mでこれに県道西伊那線が並行している。被災の延長は6,500 mにおよび、河川構造物は勿論のこと、道路のほとんどとすべての橋梁を流失し、一面全くの河原の状態、災害のひどさを物語っている。特に上流四徳地区は、全戸数84戸のうちその約80%が流失、全壊又は半壊という被害をうけ災害の大きな特色であり、又全国でも初めてのケースといわれる集団移住という問題がおきた。又下流桑原

地区の一部も集団移住を行い、遠くは愛知県、近くは駒ヶ根市及び宮田村等へ移住している。又、小渋川合流点より上流約2 kmは(桑原～四徳渡間)現在着工している小渋ダムの湛水予定地域となっている。復旧工事は、これら集団移住により全戸移転したので県道を主体とした工法により夫々実施している。猶小渋ダム湛水区域の県道は現在付替道路を、中部地建に於て実施している。

四 徳 川 復 旧 状 況

| 路河川名 | 原 決 定 | | 38年度迄竣功額 | | 39年度再調査 | |
|---------|-------|---------|----------|------------------------|---------|-------------|
| | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 |
| 四 徳 川 | | | | | | |
| 県 工 事 | 3 | 564,517 | 2 | 377,425,316 (79.6%) | 2 | 470,378,316 |
| 町 村 工 事 | 17 | 89,924 | 3 | 6,690,000 (20.5%) | 14 | 32,480,000 |
| 西 伊 那 線 | | | | | | |
| 道 路 | 6 | 83,072 | 2 | 84,760,052 (96.3%) | 6 | 87,998,520 |
| 橋 梁 | 1 | 1,527 | 1 | 1,862,000 (100.0%) | 1 | 1,862,000 |

(ハ) 前 沢 川

準用河川延長7,638 mで、支川日向沢川(準用河川延長6,308 m)を分流して、天竜川に注いでいる。上伊那郡下の災害の殆んどが、天竜川の東側に集中しているが、この河川は天竜川の西側地区に於て、郡下最

大の被害をうけている。被害は日向沢川との合流点附近約1.5 kmで、既設堤の残存箇所もあり流路の整正、河積の拡大、縦断勾配の規正等の目的で、郡下唯一の災害助成事業として採たくされ36年度より着工し、38年度に於て完結している。

前沢川災害助成工事復旧状況

| | 全体工事 | 36年度竣功額 | 37年度竣功額 | 38年度竣功額 |
|------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 事業費 | 132,012,599円 | 56,577,000円 | 29,453,000円 | 45,982,599円 |
| 災害費 | 96,191,359 | 49,069,492 | 16,804,170 | 30,317,697 |
| 助成費 | 28,228,229 | 7,507,508 | 10,660,661 | 10,060,060 |
| その他費 | 7,593,011 | --- | 1,988,169 | 5,604,842 |

(ニ) 飯田茅野線

主要地方道であるこの路線は、管内延長37,460 m(うち重用延長18,270 m、実延長19,190 m)で、36年度災害は全部長谷村に集中している。被害箇所は27箇所及び、至る処で道路は寸断され、仮道、仮橋、棧道によってかろうじて交通を確保することが出来た。特

に長谷村栗沢地籍は、栗沢川(砂防河川)に並行しているため、この河川の多量の土砂流のため道路、橋梁のすべてを押し流し、全長2,400 mにわたって被災をうけた。この間の道路の縦断勾配は平均8%を越え、極めて急なため線形、勾配等数次の踏査、測量を行なったが、地形上良いルートが見付からず、止むなく栗

沢川に並行する路線を決定し、漸く37年度末より着工しているが、現在なお仮道、仮橋によって交通を確保

している。栗沢川の上流地区に於ては、地建で砂防堰堤を実施中である。

飯田茅野線 復旧状況

| 路線名 | 原 決 定 | | 38年度竣功額 | | 39年再調査 | |
|-------|-------|---------|---------|------------------------|--------|-------------|
| | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 |
| 飯田茅野線 | | 千円 | | 円 | | 円 |
| 道 路 | 25 | 264,037 | 16 | (52.8%) 141,303,940 | 25 | 267,153,024 |
| 橋 梁 | 2 | 5,036 | 2 | (100.0%) 6,405,651 | 2 | 6,405,651 |

4. 集団移住

36年災害は、伊那谷を中心として全県下に及び、特に下伊那郡及び上伊那郡の東部、南部は最も激甚を極め、県下被害総額の80%におよぶ記録的なものであった。上伊那郡に於ても特に中川村四徳部落は、至るところ山腹が崩れ多量の土砂流となって流下したため、全部落が一面河原ともいえる惨状を呈し、この災害の大きな特色である集団移住という問題がおきた。祖先伝来の土地を離れて、新しい生活を立てねばなら

ぬ集団移住については、移住資金、移住先の生活等その決定までには、幾多の問題あったが、別表(1)にある集団移住部落の被災状況でも分る通り、農地の被災は勿論のこと、その家屋の流失、全壊等の被害が大きく、とりわけ尊い人命までも失なわれており、これらが集団移住を決意させた大きな一因となっていると思われる。次に郡下に於ても規模の大きかった全部落84戸、434人の人達全部が集団移住した。中川村、四徳部落の概況について述べて見る。

別表(1) 集団移住部落の被災状況

| 河川名 | 個 所 | 被災前 | | 被災状況 | | | | | | | | 計 | | 農地面積(田) | | | | 農地面積(畑) | | | | 摘要 |
|-------|--------|-----|-----|------|-----|----|----|----|----|----|-----|------|------|---------|------|------|------|---------|------|------|------------------|----|
| | | 戸数 | 人口 | 流失 | | 全壊 | | 半壊 | | 戸数 | 人口 | 被災前 | | 被災 | | 被災前 | | 被災 | | | | |
| | | | | 戸数 | 人口 | 戸数 | 人口 | 戸数 | 人口 | | | 戸数 | 人口 | 町反畝歩 | 町反畝歩 | 町反畝歩 | 町反畝歩 | 町反畝歩 | 町反畝歩 | | | |
| 四 徳 川 | 中川村四徳 | 84 | 434 | 48 | 237 | 4 | 26 | 9 | 41 | 61 | 304 | 22.8 | 6.15 | 7.3 | 3.9 | 19 | 29.4 | 6.10 | 7.2 | 0.13 | 部落生じ各危険にの大きなため移住 | |
| 〃 | 〃 村 | 12 | 59 | 2 | 8 | 3 | 17 | 1 | 7 | 6 | 32 | 1.3 | 5.14 | 4.0 | 2.4 | 2.8 | 0.08 | 2.6 | 2.27 | | | |
| 百々目木川 | 駒ヶ根市桃平 | 20 | 106 | 3 | 16 | | | 13 | 70 | 16 | 86 | 4.1 | 2.23 | 3.0 | 9.0 | 1.7 | 2.04 | 2.7 | 0 | | | |
| 〃 | 〃 板橋 | 7 | 31 | 5 | 25 | | | 2 | 6 | 7 | 31 | 3.5 | 1.2 | 3.4 | 0 | 1.0 | 2.25 | 1.0 | 2.25 | | | |
| 〃 支 沢 | 〃 新沢 | 6 | 33 | | | 1 | 3 | 5 | 30 | 6 | 33 | 3.2 | 7.09 | 1.5 | 1.0 | 1.2 | 9.29 | 2.5 | 2.24 | | | |
| 新 宮 川 | 〃 落合 | 16 | 70 | 15 | 65 | 1 | 5 | | | 16 | 70 | 3.1 | 1.28 | 3.1 | 2.8 | 1.9 | 2.29 | 1.4 | 4.04 | | | |
| 〃 | 〃 大洞 | 15 | 78 | 2 | 8 | 3 | 15 | 5 | 28 | 10 | 51 | 5.2 | 9.28 | 3.0 | 3.03 | 2.4 | 9.29 | 1.9 | 1.27 | | | |
| 〃 支 沢 | 〃 猿沢 | 5 | 25 | 2 | 9 | | | 3 | 16 | 5 | 25 | 3.8 | 6.0 | 3.8 | 6.0 | 1.1 | 2.22 | 2.2 | 2.22 | | | |
| 三山川流域 | 長谷村奥浦 | 25 | 149 | | | | | | | | | 3.4 | 0.11 | 4.6 | 0 | 7.9 | 3.05 | 1.0 | 1.0 | | | |

(イ) 被災前

四徳部落は中川川の東北部に位置し、この部落の中央を四徳川が南に流下しており、これに数多くの小河川が流れこんでいた。県道は西伊那線が四徳川に沿って南北に通っており、北は折草峠を経て駒ヶ根市へ、南は桑原地区を経て中川村本村へ通じていた。標高は

部落の中心で870 m程度であるが、この地区は南に面して傾斜地となっているため、比較的暖かいところでここに全部落84戸の人達が少ない耕地を最大限に活用して自給を行うと共に、山林労務、土工等により現金収入を得て生計を立てていた。部落には分校もあり、又村営の四徳鉱泉をもち、近在の人々のここを訪れる

人も多く、被災前は駒ヶ根市よりのバスの便もあり平和な山村であった。併し耕地面積も少く自然的にも経済的、社会的に恵まれない地域であった。

土木被害については、山腹の崩れによる多量の土砂流が谷一杯を埋めつくしたため、破堤又は護岸の欠陥を起し、道路、橋梁のすべてを押し流し、大きな災害をうけた。39年度の再調査額では、この地区のみで県市町村工事を併せ郡下の10.5%におよんでいる。

(ロ) 被災状況

農地、家屋等の被災は別表(1)の通りであるが、

別表(2) 土木関係災害復旧費 (39年再調査)

| | 河 川 | | 道 路 | | 橋 梁 | | 計 | |
|---------|-----|-----------|-----|---------|-----|---------|----|-----------|
| | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 |
| 県 工 事 | 1 | 397,343千円 | 5 | 5,967千円 | 1 | 1,862千円 | 7 | 405,172千円 |
| 町 村 工 事 | 13 | 30,775 | 2 | 2,353 | | | 15 | 33,128 |
| 計 | 14 | 428,118 | 7 | 8,320 | 1 | 1,862 | 22 | 43,830 |

備考 県工事河川災害は一定災で道路、橋梁を含む

表3 耕地関係災害復旧事業費

| | 面 積 | 復 旧 費 | 補助率 | 補助額 | 摘 要 |
|-----|---------|--------|------|--------|-----|
| | | | | | |
| 田 | 反73,919 | 13,979 | 88.1 | 12,315 | |
| 畑 | 72,613 | 13,631 | 〃 | 12,008 | |
| 施 設 | 16ヶ所 | 37,866 | 95.6 | 36,192 | |
| 計 | | 65,476 | | 60,515 | |

(ハ) 被災後

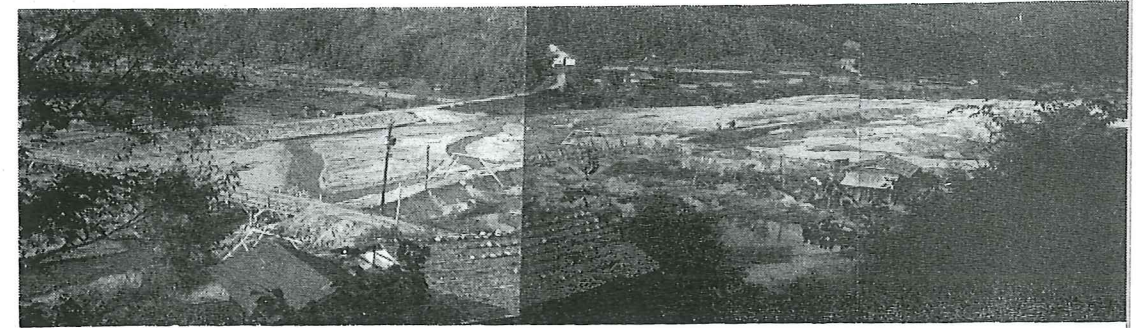
被災後四徳部落への連絡は、駒ヶ根市より折草峠を経て、県道西伊那線が漸く応急仮工事により通じたのみで、本村からの連絡は道路そのものが全くなり加へて山あいの峡谷地帯のため、仮工事の施工が極めて困難なため、徒歩交通のみでそのまま放置された。併し四徳川本川の復旧は36年10月から、部落の中央付近より工事に着工したが、初年度は冬期間とか又セメント不足等の悪条件があった為、36年末に漸く20%の進捗率であった。工着手当時は大半の人達が残留することになっていたが、その後被害があまりにも激甚であり、又急峻の山肌の荒廃が甚しく、各所に崩落箇所があり再度災害発生のおそれがあり、順次他の地域への移住という問題がおきてきた。併し部落内には被災の少なかった人達もあり、この問題に対する国の指示事項には「当該区域に住居又は農地を有する者の全

員が集団的な移住(当該区域に住居を有する者が、他の地域に住居を移すこと及び区域に農地を有する者が当該農地の使用を廃することをいう)に同意しており且他の区域に住居を移す者が5戸以上であること」という選定基準があり、その決定迄には多くの日時を要したが、日の経過につれて部落の若い人達の間には、村を離れる希望者が増加し、若し災害復旧によって部落を再建したとしても、これを受け継ぐ若い人達が移住を希望したため、この地区に於て再起を図ることが不可能の状態となったので、37年6月全部落84戸の人達が他の安全な地域に移住を決意し、村及び県にその援助を求めた。かくして集団移住が行なわれたが、この地区の復旧工事は36年度より引継いで実施していたので、とりあえず本省へ下協議をうけ、工法、実施箇所等を検討し、その後再調査により状況変化等による、不用箇所は中止して、工事を実施している。

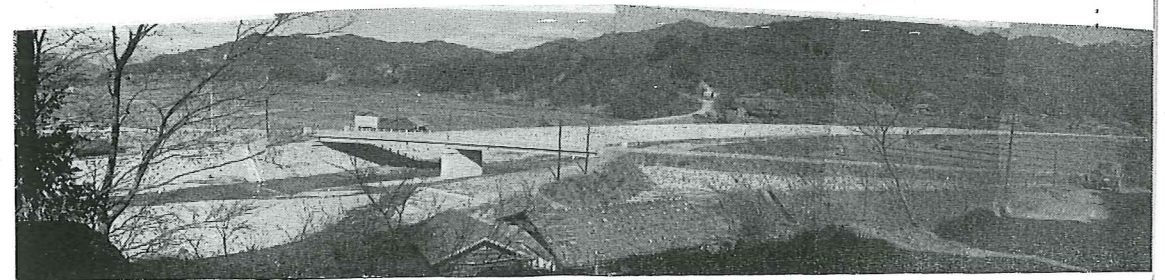
駒ヶ根市 中沢1号 新宮川



出水

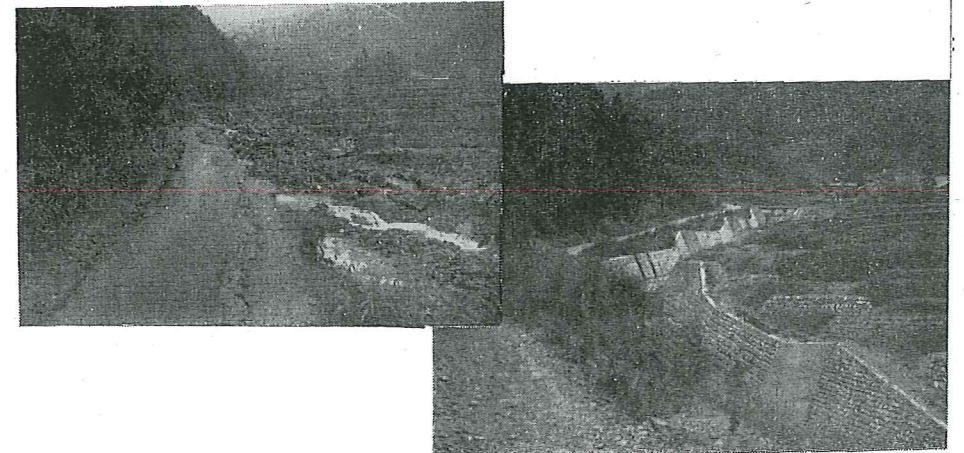


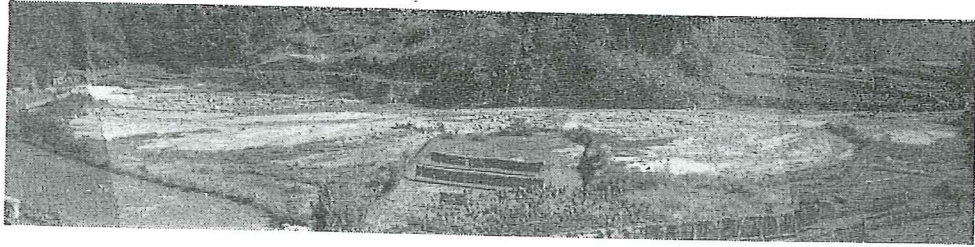
着工前



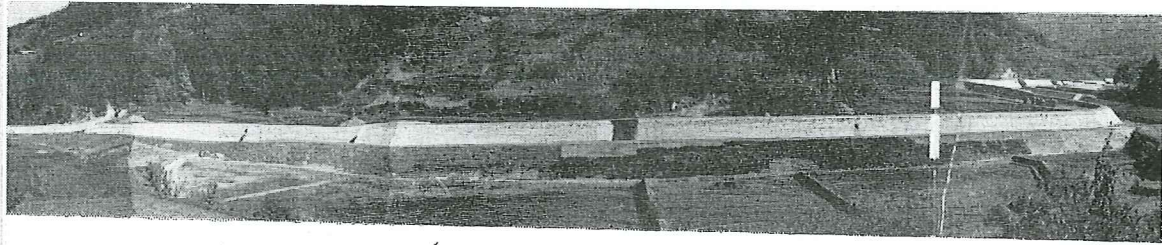
竣工

上伊那郡
中川村手取沢
天竜川支流手取沢
川の被災と復旧

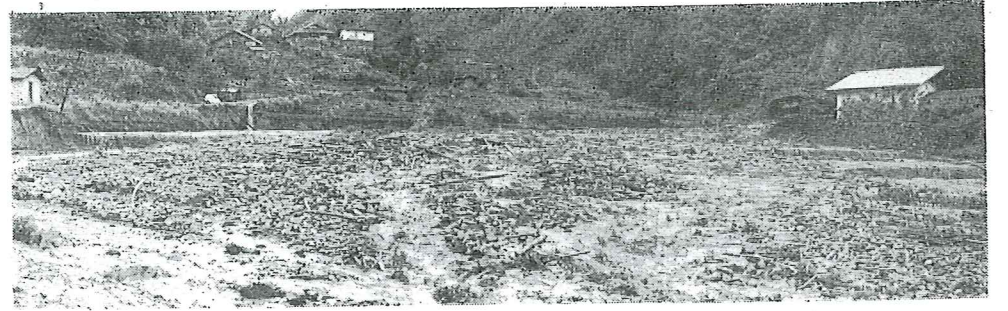




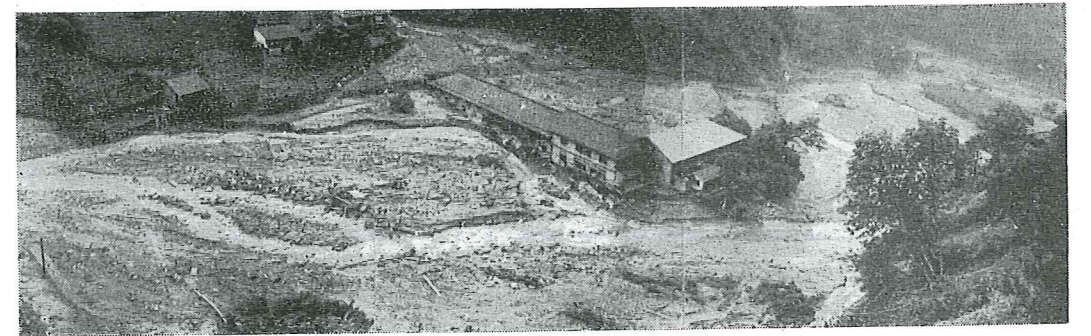
第67号 新宮川 駒ヶ根市中沢4号被災と竣工



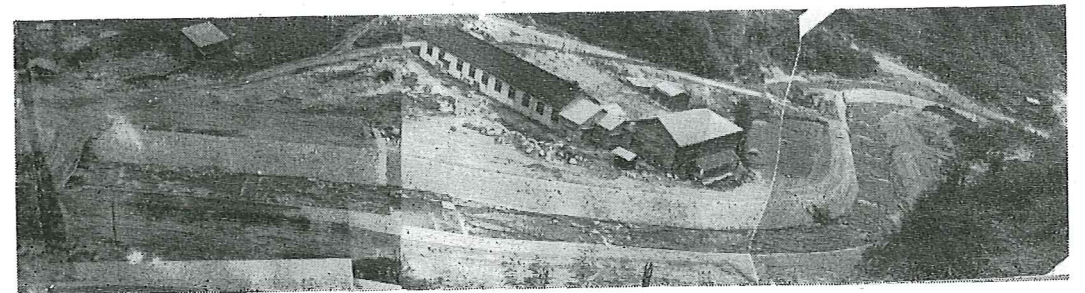
駒ヶ根市落合大洞 新宮川被災と竣工



駒ヶ根市百々目木2号 百々目木川被災と竣工

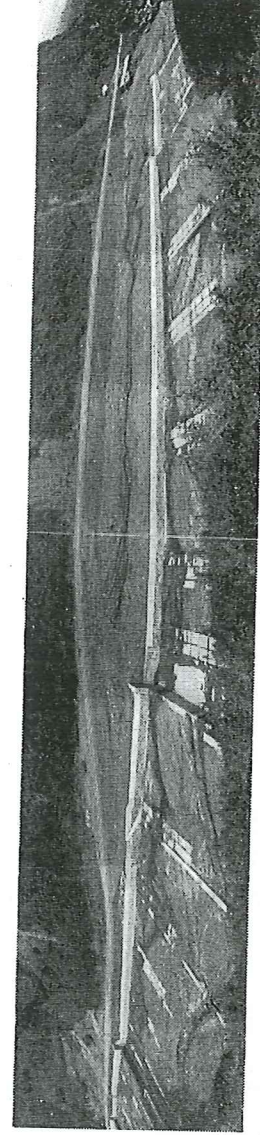
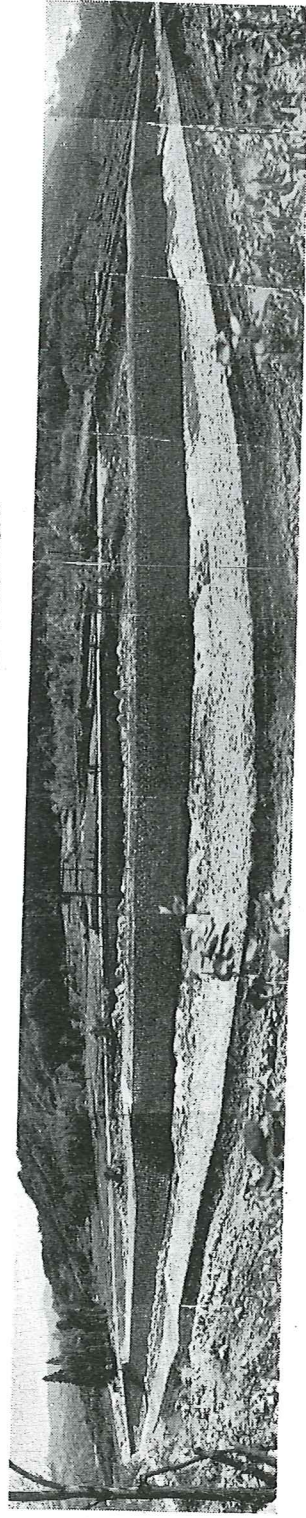


上伊那郡中川村字四徳 四徳川被災と竣工

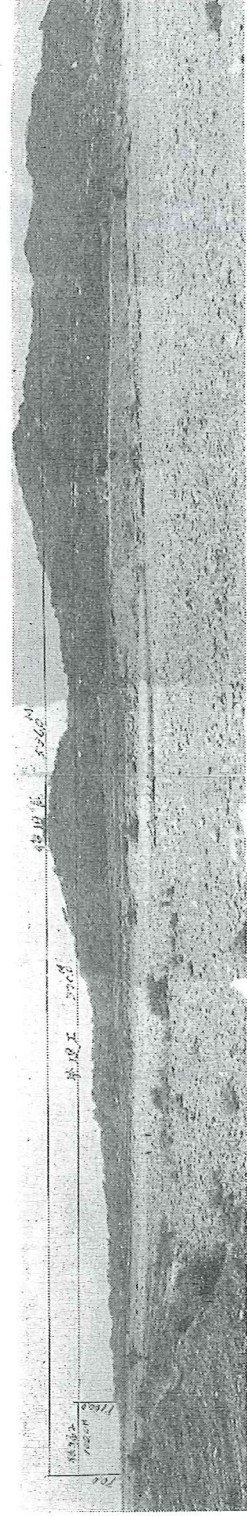




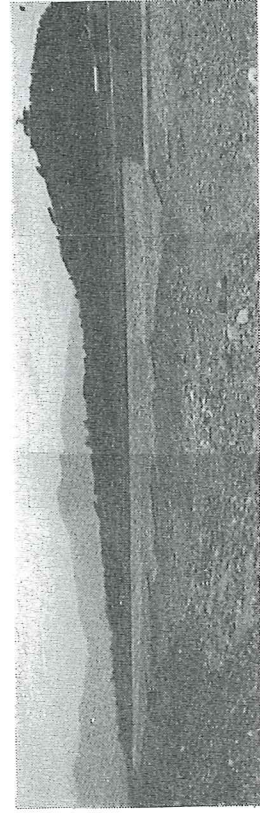
助成工事 上伊那郡中川村字中通 前沢川被災と竣工



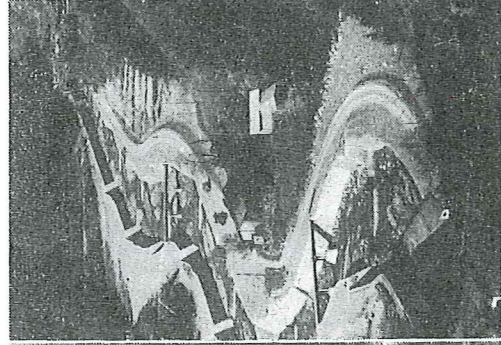
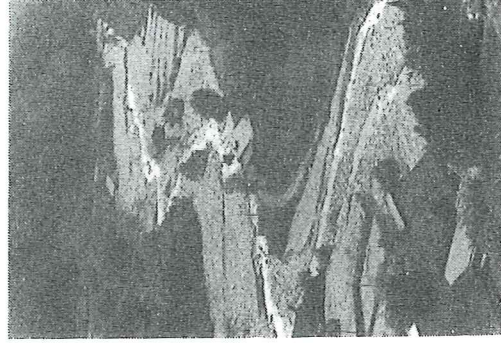
主要地方道 上伊那郡長谷村字栗沢 飯田茅野線 被災と竣工

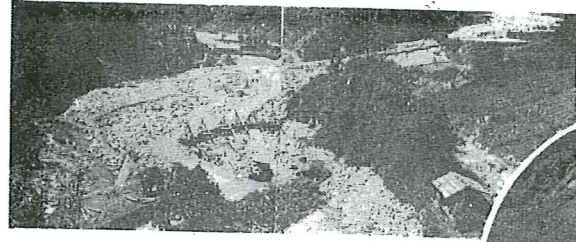


伊那市南側 三峰川被災と竣工



駒ヶ根市中沢6号 新宮川被災と竣工

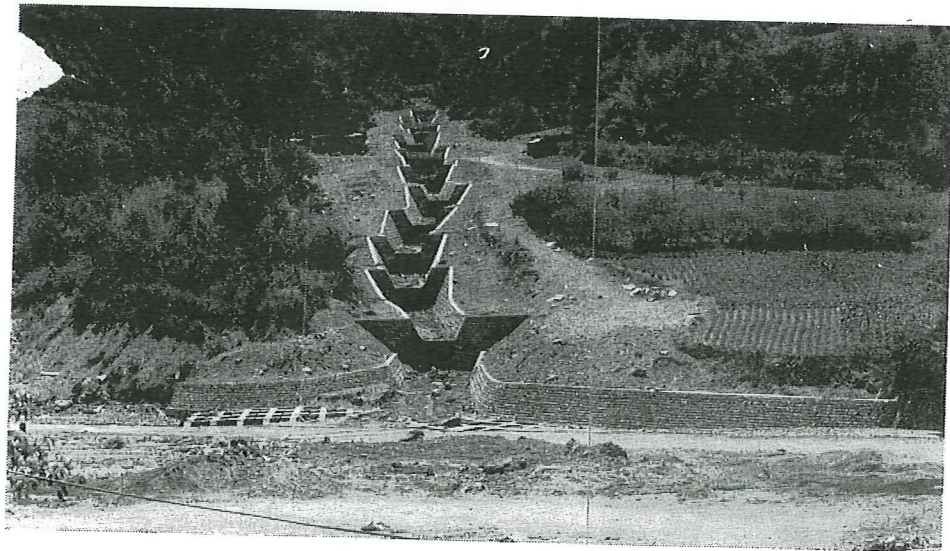




上伊那郡長谷村字熊堂沢 三峰川支流熊堂沢被災と復旧



上伊那郡長谷村字大汀沢
三峰川支流大汀沢川 被災と復旧



農業編

〔過ぎたるは及ばざるが如し〕の格言はこの豪雨によって〔及ばざるよりもおそろしき〕と訂正されるべき実態を露呈した。慈雨たるべき雨が豪雨に明けた伊那谷の様相は生あるものの正視にたえない限度をはるかに越へて、農民は呆然自失この地に住む脅威におののいた。

その状況は農耕地、農作物、家畜はもとより生産諸施設の流失埋没あるいは倒伏、あるいは冠水土砂流入等によって赤黒く変貌した大地が、昨日にかわり青く澄んだ天空にうつし出された惨状は、この地にありし人々のまぶたに終生やきつけられて永く後世に語り伝えられることであろう。

1. 被害状況

農道農用水路等農業施設の流失埋没は1,347ヶ所—286,205メートルにして農地の流失埋没被害は659町2反で43億3千万円。農作物、果樹、養蚕、畜産、水産ならびに共同利用施設関係併せて20億4千万円。併せて総被害額63億3千万円の巨額にのぼり、農民の受けた打撃は物心両面に大きく深く復興の方途の見出せないままに他郷に移住を希望するもの続出して、その数587世帯（農業者外も含む）に及び集団移住のうごきとなった。

農業関係被害状況 (1)

| 作物種類別 | | 被害面積 (反) | 被害額 (千円) |
|--------------|--------------|----------------------|-----------|
| 主要食糧、 そさい | 水 | 25,005 | 564,867 |
| | 大小 | 9,649 | 50,313 |
| | 裸麦 | 5,450 | 23,660 |
| | 雑麦 | 1,146 | 6,179 |
| | 雑穀 | 1,388 | 8,289 |
| | 甘藷 | 617 | 2,832 |
| | 馬豆 | 1,547 | 20,925 |
| その他 | 811 | 14,160 | |
| | 計 | 45,613 | 691,225 |
| 果樹 | りんご | 1,515 | 44,605 |
| | なし | 1,463 | 76,648 |
| | もも | 1,049 | 15,507 |
| | かき | 393 | 1,447 |
| | 計 | 4,420 | 138,311 |
| 工芸作物 | こんにゃく | 1,970 | 37,428 |
| | たばこ | 196 | 940 |
| | 茶 | 126 | 4,278 |
| | その他 | 19 | 280 |
| | 計 | 2,311 | 42,926 |
| 養蚕 | 桑 | 5,552 | 134,647 |
| | ゆ | 13,811K | 6,517 |
| | 乾生 | — | 1,123 |
| | 計 | — | 142,287 |
| 畜産 | 飼料 | 72,636トン | 195,415 |
| | 畜産施設 | 19,977頭 | 26,989 |
| | 畜産物 | 123トン | 338,829 |
| | 計 | — | 3,960 |
| | | — | 565,193 |
| 水産 | 魚 | — | 86,645 |
| 農協関係 | 農協共同利用施設 | — | 238,612 |
| | 事務所購買販売品、その他 | — | 138,827 |
| | 計 | — | 377,439 |
| 耕地関係 | 農業施設地 | 1,347ヶ所 | 2,650,161 |
| | 計 | 424ヶ所 | 1,460,514 |
| | | 286,205 ^m | 6,592反 |
| | | | 4,287,150 |
| | | | 6,331,170 |

2. 緊急対策

(1) 被害状況の調査集計

発生と期を一にして全市町村と県庁ならびに下伊那地方事務所、下伊那農業改良事務所、病虫害防除所、下伊那家畜保健衛生所、町村会、飯伊農業委員会外関係各団体と協力して被害状況の調査集計を行い、これに対する緊急対策を講じ、併せて災害復旧の即時実施と補助並に融資措置を国に要請した。

(2) 農作物病虫害及び家畜伝染病発生予防対策並に技術指導

7月7日～8日にわたりヘリコプターによる薬剤撒布を完了し、引きつづいて浸水家屋や畜舎等の一斉消毒を実施して、病虫害ならびに家畜伝染病の発生防止につとめた。なお一般技術対策については、農業改良普及員が中心となり、開拓地営農指導員や蚕糸関係技術者、農協関係技術員及畜産関係技術員一丸となってこれにあたった。

(3) 代作用種子及植替用稲苗甘藷苗対策

代作用種子は主として飼料作物で、大豆 6,000kg、とうもろこし 1,800kg、粟300kg、稲苗156,000束（県内及山梨県及群馬県）甘藷苗 1,000本を導入して、県有トラクターによる流失地区の整地播種を行った。

(4) 主要食糧家畜飼料及生藷輸送対策

交通杜絶のため大鹿村、上村、南信濃村、清内路村等に対し、米や家畜飼料のヘリコプターによる空輸補給を行い、特に大鹿村に対しては、そ菜、味噌、醤油等まで松川基地より空輸し、帰りには搬出が困難とされた生藷52トンの空輸を行った。

なお災害濃基部落に対しては、国に要請して輸入フスマ 260トンの放出を受けて配付を行い、南安曇郡及東筑摩郡より救援のわら 3,500貫が到着して罹災農家に配付した。

(5) 資金対策

| | |
|----------------|---------|
| イ、農業災害復旧資金 | 7,000万円 |
| ロ、災害自作農維持資金 | 8,000万円 |
| ハ、天災法による融資金 | 9,540万円 |
| ニ、災害営農資金 | 3,062万円 |
| ホ、災害総合対策事業費補助金 | 2,700万円 |

上記の融資金及補助金が緊急対策用として措置された。農業共済金 3,453万円を即時に仮払を行い、緊急対策と復興を促進し民生の安定を図った。

3. 災害復旧対策事業

(1) 災害復旧と農業近代化事業

農業の近代化を取り入れるには、地形的に恵まれない状況にある下伊那は、この際復旧事業はあげて近代化路線に沿って禍を転じて福となすべく、激甚関係1市2町6ヶ村をもって農業近代化推進協議会を設置して農道の開設、区画整理等大型機械の導入を計り、作目の集団化と協業化を推進した。

農業近代化路線にそつた災復旧事業（総括表）

| 事業種目 | 昭和36年度実績 | | | | | | | | | | 計画実 行比% |
|----------------------|-----------------------|--------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|----------------------------|---------------------------------|-----------------------|-------|------------|
| | 計 画 事 業 費 | 耕地災害 復旧事業 | 激甚 濃基 部落 共同 化事 業 | 農 業 近 代 化 事 業 | 新 農 特 別 助 成 事 業 | 其 他 の 補 助 事 業 | 融 資 単 独 事 業 | 市 町 村 自 力 事 業 | 合 計 事 業 費 | | |
| 農道整備事業 | 437,897 | 40,847 | | | 3,252 | | | 2,198 | 46,297 | 10.6 | |
| ほ場整備事業 | 1,536,444 | 95,941 | | | | | | | 395,941 | 25.7 | |
| かんがい排水施設事業 | 1,631,298 | 573,135 | | | 2,083 | 253 | | 2,856 | 578,327 | 35.4 | |
| 農地(作物)集団化事業 | 11,486 | | | | | | | 150 | 150 | 1.3 | |
| 耕上培養事業 | | | | | | | | | | | |
| 農地及び草地造成事業 | 27,779 | | | | | | | 1,744 | 1,744 | 6.2 | |
| 病虫害防除施設事業 | 34,667 | | 1,065 | | | 7,006 | 6,165 | | 14,236 | 41.0 | |
| 農業機械化事業 | 34,506 | | 18,300 | 4,415 | 4,270 | 13,277 | | 2,200 | 42,462 | 123.0 | |
| 養蚕近代化施設事業 | 56,750 | | 11,461 | 559 | | 1,636 | 9,830 | 5,100 | 28,586 | 50.3 | |
| 桑園改良改植事業 | 1,515 | | | | | 852 | | | 852 | 56.2 | |
| 作業所等共同利用建物建設事業 | 90,360 | | 14,140 | 1,286 | 3,894 | 884 | 14,775 | | 34,979 | 38.7 | |
| 種畜及び肉用素畜導入事業 | 108,615 | | | | | 6,380 | 32,296 | 8,489 | 47,165 | 43.4 | |
| 種苗確保事業 | 14,833 | | | | | 7,002 | | 399 | 7,401 | 49.8 | |
| 農産物の収穫調整乾燥選別処理加工施設事業 | 10,633 | | 2,278 | | | 1,253 | 9,092 | | 12,623 | 118.7 | |
| 水産共同施設事業 | 20,000 | | | | | 201 | | | 201 | 1.0 | |
| 高度技術修得事業 | 1,985 | | | 20 | | 89 | | 2,851 | 2,960 | 149.1 | |
| パイロット農場事業 | 71,350 | | | | | | | 450 | 450 | 0.6 | |
| 畜産共同施設事業 | 43,247 | | 4,450 | | | 618 | | 615 | 5,683 | 13.1 | |
| モデル協業育成事業 | 2,500 | | | | | 250 | | | 250 | 10.1 | |
| その他の事業 | | | | | | 3,405 | | | 3,405 | | |
| 合計 | 4,135,865 | 1,009,923 | 51,694 | 6,280 | 13,499 | 44,850 | 72,158 | 25,308 | 1,223,712 | 29.6 | |

(2) 共同利用施設の復旧事業

天龍社及び下伊那農産加工農協連及び各農業関係利用施設の災害復旧は36年～38年まで3ヶ年を要して完了した。

共同利用施設災害復旧状況

| 事業名 | 実施市町村 | 事業費 | 助成金 | 完了年月日 | 事業内容復旧後の概況 |
|------------------------------------|------------|-------------|------------|----------|--|
| 共同利用施設 | 下伊那農産加工農協連 | 3,098,875 | 2,325,100 | 36.9.30 | 食肉加工施設の復旧 |
| | 千代村農協 | 106,000 | 12,000 | 36.8.31 | 稚蚕共同飼育所貯桑室 |
| | 上郷村 | 362,363 | 230,800 | 37.2.28 | 有線放送施設 |
| 災害復旧事業 (昭和36年度事業) | 伊賀良 | 4,254,407 | 2,031,000 | 37.3.28 | 共同撰別所、選果場、農業倉庫2、精米麦施設、有線放送、資材倉庫、給油施設、飼料、資材倉庫、共同荷捌所、家畜診療所 |
| | 生田 | 2,666,570 | 1,842,200 | 37.3.31 | 稚蚕共同飼育所、有線放送施設 |
| | 喬木村 | 209,08 | 66,100 | 37.2.25 | 木炭倉庫 |
| | 豊丘村有線 | 936,822 | 748,300 | 37.3.10 | 有線放送施設 |
| | 市田 | 1,569,877 | 589,000 | 37.2.10 | 〃 |
| | 山吹 | 1,452,312 | 555,700 | 〃 | 〃 |
| | 鹿塩 | 349,849 | 159,700 | 37.3.31 | 精米麦加工施設 |
| | 大河原 | 2,345,703 | 1,272,500 | 〃 | 味噌、醤油醸造工場 |
| | 天龍社 | 138,719,562 | 80,807,800 | | 製糸施設 |
| | 小計 | 156,071,429 | 90,640,200 | | |
| 共同利用施設 | 川路農協 | 2,865,428 | 1,567,300 | 38.3.31 | 有線放送施設 |
| | 〃 | 306,450 | 58,900 | 〃 | 加工施設 |
| | 〃 | 338,621 | 139,900 | 37.12.29 | 倉庫 |
| 災害復旧事業 (昭和37年度事業) | 〃 | 560,701 | 86,800 | 38.3.31 | 資材倉庫移転 |
| | 〃 | 316,554 | 82,300 | 37.12.29 | 共同撰別所 |
| | 〃 | 391,395 | 49,000 | 38.3.31 | 肥料倉庫移転 |
| | 大河原 | 261,718 | 55,600 | 〃 | 農産物倉庫、製品倉庫 |
| | 鼎町 | 118,190 | 42,700 | 38.3.30 | 有線放送施設 |
| 小計 | 5,159,057 | 2,082,500 | | | |
| 共同利用施設 災害復旧事業 (昭和37年度事業)(畜産) | 大鹿村 | 315,119 | 87,700 | 38.3.31 | 家畜計量所 |
| | 〃 | 277,029 | 95,800 | 〃 | 集乳所 |
| | 〃 | 553,100 | 395,500 | 〃 | 家畜診療施設 |
| | 松川町 | 262,850 | 148,000 | 37.11.20 | 〃 |
| | 飯山市 | 482,159 | 57,100 | 37.12.29 | 〃 |
| 小計 | 1,890,257 | 784,100 | | | |
| 共同利用施設 災害復旧事業 (昭和37年繰越事業) | 川路農協 | 1,832,844 | 194,800 | 38.9.30 | 配電施設 |
| | 〃 | 27,478,220 | 4,759,100 | 〃 | にんにく、こんにゃく加工施設 |
| 小計 | 29,311,064 | 4,953,900 | | | |
| 合計 | | 192,431,807 | 98,460,700 | | |

(3) 開拓地入植施設復旧事業

住宅15件、畜舎9件、104万4千円の補助金を交付して復旧した。

災害復旧事業

| 事業名 | 実施市町村 | 事業量 | 事業費 | 助成金 | 完了年月日 | 事業内容復旧後の概況 | |
|------------|----------|--------------|--------------|-----------|---------|-------------------------------|---|
| 入植施設災害復旧事業 | 天龍村神原開拓 | 高橋 武男 住宅 20坪 | 470,000円 | 168,400 | 37.1.10 | 改築 全般にわたり、入植当時の | |
| 〃 | 〃 | 小川 清一 〃 10 | 120,000 | 84,200 | 〃 3.10 | 一部改修 | |
| 〃 | 南信濃村遠山開拓 | 松下 平松 〃 10 | 118,000 | 84,200 | 〃 3.20 | 〃 老朽住宅施設等が災害により復旧したので面目を一新した。 | |
| 〃 | 〃 | 鎌倉 太郎 〃 10 | 118,000 | 84,200 | 〃 | 〃 | |
| 〃 | 〃 | 遠山 大 〃 10 | 118,000 | 84,200 | 〃 | 〃 | |
| 〃 | 〃 | 鎌倉千代利 〃 10 | 118,000 | 84,200 | 〃 | 〃 | |
| 〃 | 阿智村青見平開拓 | 小笠原和市 畜舎 6 | 81,000 | 26,900 | 〃 | 〃 | |
| 〃 | 〃 | 野中 忠一 〃 12 | 192,000 | 54,000 | 〃 | 改築 | |
| 〃 | 南信濃村遠山開拓 | 鎌倉 太郎 〃 5 | 35,000 | 24,200 | 〃 | 一部改修 | |
| 〃 | 〃 | 遠山 大 〃 6 | 42,000 | 24,200 | 〃 | 〃 | |
| 〃 | 〃 | 小林 武芳 〃 5 | 35,000 | 24,200 | 〃 | 〃 | |
| 〃 | 〃 | 山口 儀平 〃 5 | 35,000 | 24,200 | 〃 | 〃 | |
| 〃 | 〃 | 石堂 郡市 〃 6 | 42,000 | 24,200 | 〃 | 〃 | |
| 〃 | 〃 | 緑川 福雄 〃 6 | 84,000 | 48,500 | 〃 | 改修 | |
| 〃 | 〃 | 松長 力男 〃 6 | 42,000 | 24,200 | 〃 3.20 | 一部改修 | |
| 〃(県単) | 大鹿村大鹿開拓 | 北沢 守 住宅 7 | 80,000 | 20,000 | 〃 3.28 | 〃 | |
| 〃 | 〃 | 下条村下条開拓 | 鎮西 寿一 〃 21 | 45,000 | 20,000 | 〃 3.20 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 天龍村神原開拓 | 後藤 秀 〃 17.5 | 42,000 | 20,000 | 〃 3.18 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 根羽村根羽開拓 | 森本 弘良 〃 10 | 170,000 | 20,000 | 〃 3.19 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 福沢 福義 〃 10 | 170,000 | 20,000 | 〃 3.1 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 阿智村青見平開拓 | 原 昇 〃 8.5 | 42,000 | 20,000 | 〃 3.25 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 河合栄三郎 〃 12.5 | 43,000 | 20,000 | 〃 3.15 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 浪合村浪合開拓 | 塩沢喜三郎 〃 17.5 | 45,800 | 20,000 | 〃 3.25 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 佐々木サカエ 〃 13 | 54,200 | 20,000 | 〃 | 〃 |
| 合計 | | 住宅 15件、畜舎 9件 | 2,342,000 | 1,044,000 | | | |

(4) 集団移住事業

住移促進指定地域に指定された豊丘村二丁、大鹿村北川北入地域の外、その他の地域住民も加わって189戸が移住し、これらの移住農家に対しては1世帯10万円、1人当たり2万円（指定地外は1世帯5万円のみ）の移

住資金の外、これらの所有地は県又は村で買上げて植林を行ない、治山治水をあわせて来るべき次の豪雨にそなえた。

集団移住状況

| 村名 | 移住戸数 | 移住人員 | 資金交付状況 | 土地買上状況 | 右全金額 |
|-----|------|------|---------|---------------------------------------|----------|
| 豊丘村 | 71戸 | 341人 | 5,100千円 | 水田 18反 畑 15反 原野 170反 宅地 550坪 | 12,670千円 |
| 大鹿村 | 118戸 | 580人 | 14,600 | | |
| 合計 | 189戸 | 921人 | 19,700 | | |

移住者の移住先別区分表

| 移住先 | 大鹿村 | | | 豊丘村 | | 合計 |
|---------|------|-------|-------|------|-------|-----|
| | 指定地域 | 準指定地域 | その他地域 | 指定地域 | その他地域 | |
| 茨城県 | 4 | | 1 | | | 1 |
| 愛知県 | | | 6 | | | 10 |
| 静岡県 | | | 1 | | | 1 |
| 東京都 | | | 1 | | | 1 |
| 名古屋市 | | | 2 | | | 2 |
| 松本市 | | | 1 | | | 1 |
| 諏訪市 | | | 2 | | | 2 |
| 岡谷市 | 3 | | 9 | | | 12 |
| 伊那市 | 4 | | 7 | | | 11 |
| 駒ヶ根市 | 21 | 8 | 4 | | | 33 |
| 上伊那郡辰野町 | | | 2 | | | 2 |
| 〃 高遠町 | 1 | | | | | 1 |
| 〃 南箕輪村 | 2 | | 1 | 1 | | 4 |
| 〃 西春近村 | | | 2 | | | 2 |
| 〃 宮田村 | 4 | | 3 | | | 7 |
| 下伊那郡松川町 | 4 | 1 | 15 | 3 | | 23 |
| 〃 高森町 | | | 2 | 1 | 1 | 4 |
| 〃 上郷村 | | 2 | 2 | | | 4 |
| 〃 飯田市 | | | 1 | | 1 | 2 |
| 〃 村内 | 1 | 1 | | 4 | 60 | 66 |
| 合計 | 44 | 12 | 62 | 9 | 62 | 189 |

(5) 農地及び農業用施設
復旧事業

耕地関係の被害額は約42億9千万円にのぼり、復旧には特に農地に重点をおき早期完成を目標とした。実施については関係官庁等と密接な連絡をとり、民生安定のため総合的に効果をあげるように努め、38年度まで農地298ヶ所、面積5,664.6反の復旧を終り、3ヶ年で90.4%の進捗に達し、農業用施設（水路、頭首工、

道路、橋梁、溜池、農地保全等）では1,101ヶ所を復旧し、その進捗は84%となっている。従って38年度までの耕地関係の実施総額は1,399ヶ所の36億9千7百万円で進捗は86%を示している。

尚、残工事はいづれも39年度で完了することになっている。なおこれ等の状況については別表(1)(2)(3)を参照されたい。

別表(1) 耕地関係災害復旧状況 (下伊那郡)

| 種別 | 総額 | | | 38年度までの実績額 | | | | 39年度実施額 | | | |
|-------|----------------|----------|------------------------|--------------|----------|------------------------|------------|-------------|--------|---------------------|-----------|
| | ヶ所 | 面積 | 事業費 | ヶ所 | 面積 | 事業費 | 進捗 | ヶ所 | 面積 | 事業費 | 進捗 |
| 農地 | 398 | 6,144.8反 | 1,460,514千円 | 298 | 5,664.6反 | 1,319,729千円 | 90.4% | 100 | 480.2反 | 140,785千円 | 9.6% |
| 農業用施設 | (118) 1,295 | | (168,475) 2,658,161 | (105) 996 | | (157,102) 2,221,109 | (93) 84 | (13) 299 | | (11,373) 437,052 | (7) 16 |
| 計 | 1,811 | 6,144.8 | 4,287,150 | 1,399 | 5,664.6 | 3,697,940 | 86% | 412 | 480.2 | 589,210 | 14% |

(註) 上段()は災害関連事業を示す。

別表(2) 市町村別 災害復旧状況

(1) 農地

| 年度 市町村 | 38年度までの実施額 | | | 39年度の実施額 | | | 39年度までの実施額 | | | 摘要 | | |
|-----------|------------|---------|---------------|----------|---------|---------------|---------------|-----|---------|-------------|-------------|------|
| | ヶ所 | 面積 | 補助金 | ヶ所 | 面積 | 補助金 | ヶ所 | 面積 | 補助金 | | | |
| 県 | 6 | 15.8 | 1,733,487 | 5 | 14.0 | 1,951,000 | 1,324,718 | 1 | 1.8 | 602,000 | 408,769 | 24% |
| 松川 | 76 | 790.6 | 181,529,000 | 47 | 637.2 | 144,953,000 | 128,611,679 | 29 | 153.4 | 36,576,000 | 32,590,282 | 20% |
| 高森 | 34 | 1,178.1 | 253,744,000 | 24 | 1,25.5 | 171,400,000 | 211,198,897 | 10 | 52.9 | 12,007,000 | 10,359,045 | 5% |
| 上郷 | 12 | 132.2 | 17,140,000 | 12 | 132.2 | 17,140,000 | 13,746,264 | | | | | |
| 阿智 | 29 | 138.1 | 38,662,000 | 23 | 125.5 | 30,666,000 | 26,398,575 | 6 | 12.6 | 7,996,000 | 6,926,331 | 21% |
| 浪合 | 1 | 2.2 | 379,668 | 1 | 2.2 | 379,000 | 280,830 | | | | | |
| 平谷 | 1 | 4.1 | 284,282 | 1 | 4.1 | 284,000 | 244,524 | | | | | |
| 下条 | 2 | 3.5 | 326,326 | 2 | 3.5 | 326,000 | 198,532 | | | | | |
| 竜江 | 5 | 229.5 | 63,887,000 | 5 | 229.5 | 63,487,000 | 54,027,416 | | | | | |
| 上久堅 | 1 | 9.1 | 905,674 | 1 | 9.1 | 905,000 | 79,500 | | | | | |
| 番木 | 7 | 36.0 | 909,979 | 7 | 36.0 | 909,000 | 30,000 | | | | | |
| 豊丘 | 75 | 829.8 | 185,974,581 | 99 | 802.1 | 179,274,674 | 154,384,651 | 6 | 24.7 | 9,526,996 | 5,171,259 | 3% |
| 大鹿 | 38 | 1,172.7 | 920,151 | 22 | 352.5 | 105,533,501 | 96,159,266 | 91 | 9.1 | 45,493,000 | 39,442,868 | 30% |
| 南信濃 | 2 | 6.55 | 99,788 | 1 | 9.6 | 24,142 | 16,291 | 1 | 9.2 | 6,158 | 287,633 | 46% |
| 渡田 | 2 | 0.181 | 915 | 1 | 8.88 | 47,459 | 45,751,667 | 28 | 1.6 | 23,573,000 | 19,105,202 | 5% |
| 計 | 388 | 6,441.9 | 1,510,997,111 | 298 | 5,894.5 | 1,319,618,111 | 1,147,407,637 | 100 | 2,480.7 | 140,485,000 | 121,702,202 | 9.6% |

別表(3) (2) 農業用施設

| 年度 市町村 | 38年度までの実施額 | | | 39年度の実施額 | | | 39年度までの実施額 | | | 摘要 | |
|-----------|------------|---------------|---------------|----------|---------------|---------------|------------|------|--------------|-------------|-----|
| | ヶ所 | 面積 | 補助金 | ヶ所 | 面積 | 補助金 | ヶ所 | 面積 | 補助金 | | |
| 県 | 15 | 24,622,000 | 20,337,714 | 15 | 24,622,000 | 20,337,714 | 100 | (2) | 701,000 | 467,351 | (6) |
| 松川 | (9) | (12,090,000) | (8,060,000) | (17) | (11,389,000) | (7,592,649) | (94) | 51 | 73,024,000 | 72,431,648 | 14 |
| 高森 | (15) | (23,030,000) | (15,353,321) | (15) | (23,030,000) | (15,353,321) | (100) | 26 | 33,339,000 | 31,007,258 | 10 |
| 阿南 | 13 | 3,767,000 | 2,448,550 | 12 | 3,559,000 | 2,313,350 | 94 | 1 | 208,000 | 135,200 | 6 |
| 上郷 | (2) | (1,974,000) | (1,315,999) | (2) | (1,974,000) | (1,315,999) | (100) | 2 | 2,568,000 | 2,226,551 | 5 |
| 清内路 | 46 | 49,716,000 | 43,103,772 | 44 | 47,148,000 | 40,877,221 | 95 | 2 | 2,226,551 | 2,226,551 | 5 |
| 阿智 | (1) | (1,413,000) | (942,000) | (0) | 67,377,000 | 61,297,361 | 59 | 25 | 46,210,000 | 42,651,938 | 41 |
| 渡合 | 12 | 6,105,000 | 5,170,904 | 12 | 6,105,000 | 5,170,904 | 100 | | | | |
| 根羽 | 5 | 2,233,000 | 1,451,450 | 5 | 2,233,000 | 1,451,450 | 100 | | | | |
| 下条 | 44 | 21,369,000 | 17,159,307 | 37 | 16,646,000 | 3,366,622 | 78 | 7 | 4,723,000 | 3,792,685 | 22 |
| 壳木 | 1 | 123,000 | 79,950 | 1 | 123,000 | 79,950 | 100 | | | | |
| 天竜 | 2 | 475,000 | 308,750 | 2 | 475,000 | 308,750 | 100 | | | | |
| 竜江 | 30 | 52,590,000 | 46,594,740 | 29 | 51,800,000 | 45,894,692 | 98 | 1 | 790,000 | 700,048 | 2 |
| 上久堅 | 1 | 858,000 | 557,700 | | | | | 1 | 858,000 | 557,700 | 100 |
| 番木 | (1) | (2,324,000) | (1,549,330) | (1) | (2,324,000) | (1,549,330) | (100) | 5 | 1,776,000 | 1,504,319 | 5 |
| 豊丘 | (17) | (37,784,000) | (32,003,048) | (6) | (36,005,000) | (30,498,729) | 95 | (1) | (145,000) | 20,049,588 | (3) |
| 大鹿 | (3) | (1,572,000) | (99,087,804) | (3) | (1,572,000) | (99,087,804) | (100) | 16 | 34,396,000 | 32,607,480 | 33 |
| 南信濃 | 13 | 11,571,000 | 9,526,996 | 10 | 7,435,000 | 6,125,666 | 64 | 3 | 4,136,000 | 3,401,330 | 36 |
| 渡田 | (60) | (120,068,000) | (80,045,332) | (51) | (110,954,000) | (73,968,662) | (92) | (9) | (9,114,000) | (6,076,670) | (8) |
| 計 | (118) | (168,475,000) | (112,316,645) | (105) | (157,102,000) | (104,733,930) | (93) | (13) | (11,373,000) | (7,582,715) | (7) |

(6) 蚕糸関係復旧事業

(イ) 桑園

桑園の主なる被害地は、天龍川沿岸の飯田市竜江、川路、松尾地区の桑園であって、桑園としての復旧も昭和37年度中に終り、昭和38年4月にいづれも植付を完了した。同桑園は畦間3m、株間1.5mの植付けで中高刈仕立とし、共同で一貫した技術体系による、省力栽培を基とした近代桑園として発足してお

| 被害施設 | 復旧費 千円 | 内 訳 | | | 資 金 | |
|----------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|
| | | 建物 千円 | 機械装置 千円 | その他 千円 | 補助金 千円 | 自己 千円 |
| 天龍社市田工場 | 104,477 | 15,060 | 59,979 | 33,938 | 80,808 | 23,669 |
| 川路稚蚕共同飼育所及附属建物 | 1,673,640 | 1,673,640 | — | — | 624,000 | 1,049,640 |

4. 農業災害復旧のあと をかへりみて

(1) 禍転為福

大いなるストレスは人の心にも大いなる変化と進展を与へた。

その代表的なものは、農業近代化路線に沿った水田復旧事業でも平常では行い得ない耕地の区割整理は50アールを1枚とする水田となり、大型トラクターによる機械化農業を行う一大協業経営を作り上げた。

戸数54戸の飯田市松尾明地区の協業経営である。40haの水田の耕起代かき等はトラクターにより、種子は直播で病害虫の防除のための薬剤散布とともにヘリコプターのチャーターにより空中撒布にて行い、刈取り脱穀はコンバインによっておこない、調整はライスセンターによる一貫作業で労力の節減が出来、労働生産性をすばらしく向上している。

これに準じる地区が高森町市田河原、大鹿村大河原豊丘村神稲小園地区等がある。

日本三大桑園の一つといわれた川路竜江桑園も災害により全くの砂原と化した。近代桑園に復旧し、大型機械による一貫した共同耕作と管理が行なわれている。

また稚蚕共同飼育もこれを三輪まで延長し、簡易飼育ハウス等による省力養蚕経営が実施されようとしている。

る。

(ロ) 共同利用施設

天龍社市田工場は、新式な設備を取り入れて完了し昭和36年12月から操業が開始され、災害前に優る能力を挙げている。

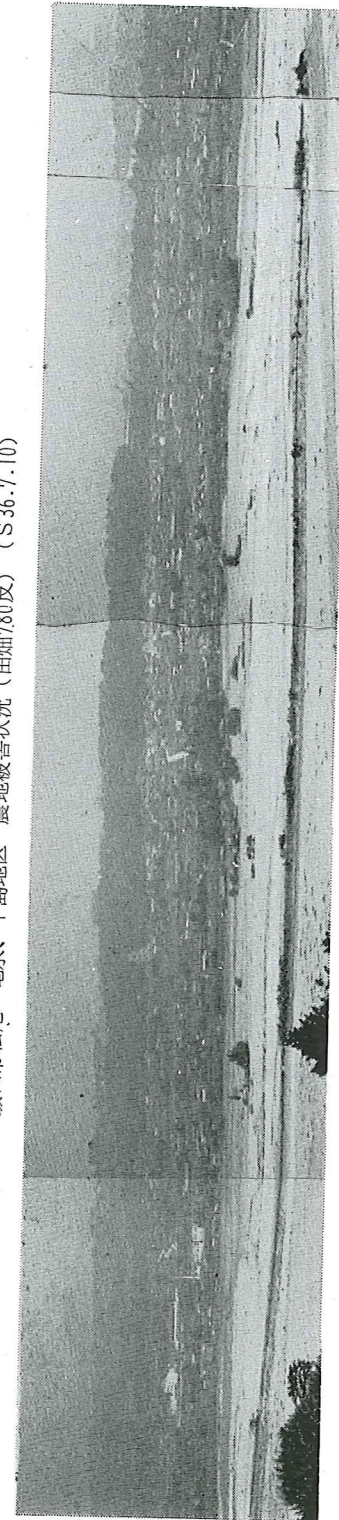
川路稚蚕共同飼育所も昭和36年度中に復旧完了し、昭和37年の春蚕から飼育をしてお

高森町に災害を契機として出来た共同利用施設(共同養豚場)と飯田市川路の豚の共同飼育は、ともに労力の節減が出来、労働生産性の向上により年々好成績を上げている。

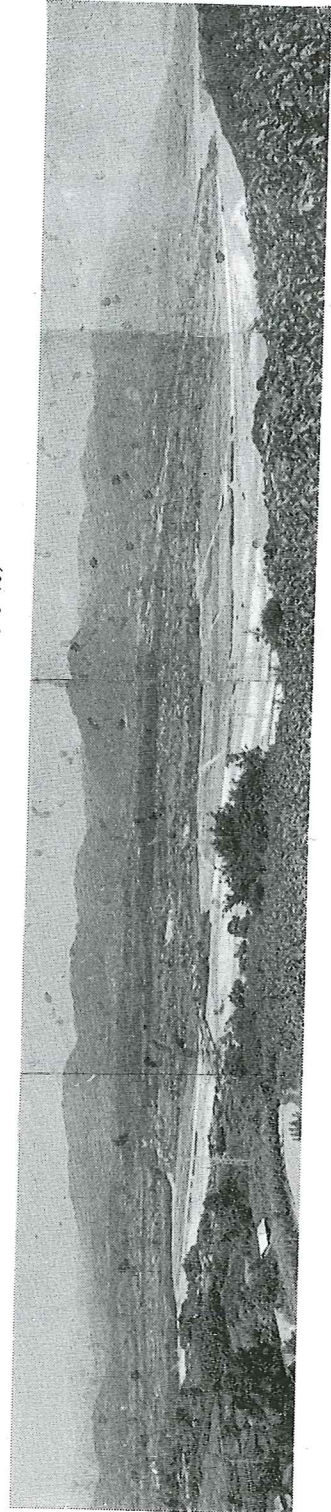
(2) 過去をふりかへり

明日に備へる

農業は常に大なり小なりの天災にさらされている。そして、この脅威のなかに農業は年々春秋とともに繰返してゆくことを思い且又、下伊那地域の農業は、農家人口11万1千人(総人口の52%)を抱擁して生々発展して行く一大産業であることを思うとき、この36災の復興を起点として、来るべき災害に対応すべく11万住民の総力を結集して、備荒財力の蓄積に邁進したいと思う。



飯田市松尾、竜水、下島地区 農地被害状況(田畑780区) (S36.7.10)



竣工全影 (完了S38.5.10)

編 業 林

今回の雨量は恵那山系より、飯田市、高森町、松川町を経て大厩村に通じ、下伊那郡の北部を東西に両断するヶ所が特に激甚をきわめ、この区域に沿う林道欠壊治山堰堤の欠壊、更に山腹の崩壊等今までに多年にわたって積み重ねられたこれらの施設は、一朝のうちに見る影もなく欠壊、消失しその被害額は、

| | |
|--------|-------------|
| 治山被害額 | 2,281,446千円 |
| 林道被害額 | 419,116千円 |
| 林産被害額 | 283,939千円 |
| 国有林被害額 | 546,971千円 |
| 計 | 3,531,472千円 |

のぼう大なる数字にのぼり、これを如何に早急に復旧するかが災害時の大きな問題であった。特に本郡においては、治山10ヶ年計画が昭和35年度に始められ、その前期5ヶ年計画が緒につき、又林道においては、林道網の拡充計画として1ha当り10mの計画、更に造林においては、拡大造林の推進等その緒ついていた矢先だけに、林業関係者の打撃は特に大きいものがあつた。これだけの大きな被害について、これを担当する職員は地方事務所林務課職員60名、特に緊急調査、測量に要する職員は林道、治山に至っては林道12名、治山20名に過ぎないため応急処置として、林業改良普及員の経験者を全員これに動員すると共に、県、又は他府県より応援を求め、又林道においては、市町村において測量、設計するのが原則となつていたので、この原則に基づいて町村職員を指導して、測量、設計をまとめた又復旧事業の実施については治山、林道共民生安定を考慮して部落に接近するヶ所より逐次施行して奥地、上流に及ぼした。幸いにして38年度末においては、民有林は治山61%、林道86%又、国有林は治山43%、林道91%の実績を示すまでに至つた。

林産関係の被害もその数字に示すとおり、製材素材の流出を初め山腹崩れに伴つて、立木の被害も大きく特に松川町、生田方面は地質ぜい弱なうえ新しい造林地のために、至るところに生じた生々しい爪跡は大小無数の山地崩壊を生じた。

これら災害の発生の原因は、未曾有の雨量によることは勿論であるが、地形、地質、森林の状態並びに河

川の状況などによって被害の程度を左右し、押し流された素材、立木、木炭、炭カマ、薪等のうち素材は佐久間ダムに揚げられて、流木処理委員会により処理された。

1. 治山関係

治山関係被害は郡下全地域におよび、その被害総額は22億8,000余万円にも達した。

これに対処するため、林務課係員を始め天竜川治山事務所職員林業改良指導員の応援を求めて現地調査をすると共に、県へも応援を依頼して調査査定を受けたが、その査定額は特緊分10億2,100万円緊急査定6億9,900万円となり、特緊分10億2,900万円については別紙のとおり36年度より39年度の4ヶ年間にほぼ完了することになっている。

又施設災害についても別表(1)、(2)のとおり完了した。ただ緊急査定分6億9,900万円について、40年度以降の治山事業として計画実施される見込みである

別表(1) 治山事業実績

| 町村名 | 被害額 | | 特殊緊急査定 | | 緊急査定 | | 36年度実績 | | 37年度実績 | | 38年度実績 | | ,9年度以降 | |
|-----|-----|-----------|--------|-----------|------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|----|
| | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 |
| 松川 | | 千円 | | 千円 | | 千円 | | 千円 | | 千円 | | 千円 | | |
| 高森 | 1 | 500,560 | 1 | 436,049 | 1 | 64,000 | 9 | 23,853 | 25 | 65,928 | 24 | 87,447 | | |
| 売木 | | 26,610 | | | | 15,000 | | | | | | | | |
| 清内路 | | | | | | | | | | | | | | |
| 阿智 | 1 | 232,430 | 1 | 52,000 | 1 | 100,000 | 2 | 6,916 | 3 | 10,361 | 2 | 7,324 | | |
| 浪合 | | | | | | | | | | | | | | |
| 平根 | 1 | 217,000 | 1 | 44,000 | 1 | 82,000 | 1 | 6,500 | 3 | 8,450 | 1 | 3,550 | | |
| 合谷 | | | | | | | | | | | | | | |
| 羽 | | | | | | | | | | | | | | |
| 下条 | | | | | | | | | | | | | | |
| 泰阜 | 1 | 52,450 | 1 | 13,811 | 1 | 38,000 | 1 | 2,000 | 2 | 6,690 | 1 | 2,673 | | |
| 天龍 | | | | | | | | | | | | | | |
| 千代 | | | | | | | | | | | | | | |
| 龍江 | | | | | | | | | | | | | | |
| 上久堅 | 1 | 55,090 | 1 | 28,070 | 1 | 17,000 | 1 | 1,750 | 2 | 4,560 | 1 | 2,460 | | |
| 喬木 | | | | | | | | | | | | | | |
| 豊丘 | 8 | 475,730 | 8 | 210,000 | 8 | 110,000 | 8 | 19,169 | 5 | 13,108 | 7 | 17,905 | | |
| 上 | | | | | | | | | | | | | | |
| 南信濃 | | | | | | | | | | | | | | |
| 上郷 | | | | | | | | | | | | | | |
| 飯田市 | 9 | 652,396 | 9 | 231,200 | 9 | 220,821 | 9 | 30,085 | 12 | 31,507 | 11 | 41,897 | | |
| 総計 | | 2,281,446 | | 1,029,000 | | 699,821 | 49 | 137,569 | 85 | 237,596 | 79 | 250,985 | | |

別表(2) 施設災害実績

| 町村名 | 査定額 | | 36年実績 | | 37年実績 | | 38年実績 | | 実績計 | |
|-----|-----|--------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-----|--------|
| | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 | ヶ所 | 金額 |
| 松川 | 2 | 千円 | 1 | 千円 | 1 | 千円 | | 千円 | 2 | 千円 |
| 高森 | 3 | 1,998 | 1 | 572 | 2 | 1,497 | | | 4 | 2,069 |
| 上郷 | 3 | 6,017 | | 2,181 | 2 | 3,182 | 1 | 1,346 | 4 | 6,709 |
| 浪合 | 3 | 4,690 | | | 1 | 154 | 2 | 5,815 | 3 | 5,969 |
| 喬木 | 2 | 6,645 | | | 1 | 6,180 | 1 | 2,441 | 2 | 8,621 |
| 豊丘 | 7 | 14,364 | 1 | 2,381 | 6 | 12,997 | 1 | 848 | 8 | 16,226 |
| 飯田市 | 5 | 8,865 | | | 4 | 7,916 | 1 | 1,905 | 5 | 9,821 |
| 飯田市 | 2 | 5,160 | | | 2 | 3,383 | 1 | 1,722 | 3 | 5,105 |
| 総計 | 24 | 47,739 | 3 | 5,134 | 17 | 35,309 | 7 | 14,077 | 27 | 54,520 |

2. 林道関係

既設林道152路線総延長42万6,737mのうち92路線35,469mが破壊され、その被害は4億1,911万6千円におよび、優秀林道の大部分が損傷をみた。

地元では家屋、田畑等の被害が大きく、この復旧にも手が廻らない実情であったが、応急的仮工事できりあえず通行を確保し、その後県の技術職員の応援を得

て、緊急分の測量設計を開始し、その後も他の地方事務所等の応援をえて、28路線241ヶ所15,596m2億7,504万円の設計査定をうけ、その結果28路線240ヶ所2億6,807万4千円、査定率97.5%となった。第2次分として105ヶ所の測量および設計をなし、その査定額45路線13ヶ所1億1,156万1千円となっている。

この査定総額3億7,963万5千円の復旧年次計画は次のとおりであった。

| 年度 | 昭和36年度 | 昭和37年度 | 昭和38年度 | 昭和39年度 | 計 |
|-----|----------|-----------|----------|----------|-----------|
| 復旧率 | 25% | 40% | 20% | 15% | 100% |
| 復旧額 | 95,000千円 | 150,000千円 | 76,000千円 | 58,635千円 | 379,635千円 |

しかし現地の事情は当年25%の予算ではとうてい地元の要望に応えることができず、特に激甚地の松川町、阿智村、豊丘村、飯田市、上郷村に至っては、復旧資材の木材の搬出に支障を生じ、毎日のように地方事務所に陳情に来る有様であった。地方事務所としては、この地元の要望に応ずべく、県又は国に地元の状況を上申して、当年度において当初計画25%を上廻る28.1%、査定額において1億0,117万1千円の予算確保ができた。

この予算の配付については特に深重を期し、特に緊急なる松川町、上郷村、阿智村、豊丘村、飯田市を重点に予算配付をして実行に移った。

しかし、これに伴う職員の配置を県の方にその都度要求していたが、僅かに災害当時は県より2人~3人の応援と、福島県より1人来たのみであった。

このため町村より職員は毎日地方事務所に駐在して一体になって、やまと纏めえた状態で、その後37年、38年度の予算についても順調に進まず、やむをえず施越を認めて緊急分より施行する状況であった。その施行概況は別表(3)のとおりである。

これらの被害については何れも早期復旧の方途を講じ、炭窯については補助規則を適用して復旧に努めた
 災害炭窯復旧状況は次のとおり

| 市町村名 | 窯数 | 補助金 | 市町村名 | 窯数 | 補助金 |
|---------|-----|---------|---------|----|---------|
| 清内路村 | 18基 | 60,075円 | 喬木村 | 9基 | 34,650円 |
| 阿智村 | 10 | 40,270 | 松川町 | 13 | 56,250 |
| 飯田市(松尾) | 1 | 4,500 | 飯田市(千代) | 1 | 2,920 |
| 飯田市 | 14 | 63,000 | 豊丘村 | 23 | 87,970 |
| 大鹿村 | 4 | 12,930 | 計 | 93 | 362,565 |

又、造林地の被害状況は別表(5)のとおりである。

別表(5) 造林地被害状況

| 町村名 | 面被 | | | 計 | 種別内訳 | | | | | 計 |
|-----|--------------|----------------|--------------|--------|-------|-------|--------|--------|-------|--------|
| | 被害率 50%以下 | 被害率 50%~70% | 被害率 70%以上 | | すぎ | ひのき | あかまつ | からまつ | 広葉樹 | |
| 松川 | 90.75 | 28.70 | 11.78 | 131.23 | 30.90 | 34.50 | 65.83 | | | 131.23 |
| 高森 | 15.00 | 8.00 | 1.50 | 24.50 | 7.75 | 2.60 | 12.95 | 1.20 | | 24.50 |
| 上郷 | 7.00 | | 3.00 | 25.00 | 2.80 | 2.80 | 11.10 | 8.30 | | 25.00 |
| 清内路 | 15.00 | 15.00 | | 15.00 | 3.00 | 1.50 | 10.50 | | | 15.00 |
| 阿智 | 28.00 | | | 28.00 | 11.90 | 7.70 | | 8.40 | | 28.00 |
| 浪合 | 3.00 | | | 3.00 | 1.00 | | | 2.00 | | 3.00 |
| 平谷 | 12.00 | | | 12.00 | 2.40 | | | 9.60 | | 12.00 |
| 根羽 | 1.00 | | | 1.00 | 1.00 | | | | | 1.00 |
| 下条 | | 10.14 | | 10.14 | 1.40 | 1.50 | 1.00 | 0.10 | 6.14 | 10.14 |
| 泰阜 | 1.50 | 1.45 | 0.85 | 3.80 | 1.45 | 1.20 | 1.00 | 0.15 | | 3.80 |
| 千代 | | | 12.20 | 12.20 | 1.15 | 2.85 | 2.00 | 5.10 | 1.10 | 12.20 |
| 龍江 | | | 6.42 | 6.42 | | 0.20 | | | 6.22 | 6.42 |
| 上久堅 | | | 3.90 | 3.90 | 0.30 | 0.40 | 1.00 | | 2.20 | 3.90 |
| 喬木 | 23.00 | 3.00 | 2.00 | 28.00 | | 5.00 | 6.00 | 11.40 | 5.60 | 28.00 |
| 豊丘 | 44.00 | 31.00 | 5.00 | 80.00 | 4.00 | 7.80 | 9.70 | 58.50 | | 80.00 |
| 大鹿 | 27.00 | | | 27.00 | 1.00 | 1.00 | | 25.00 | | 27.00 |
| 上 | 14.00 | 9.50 | | 23.50 | 17.30 | 1.70 | 1.00 | 3.50 | | 23.50 |
| 南信濃 | 0.55 | | | 0.55 | 0.55 | | | | | 0.55 |
| 飯田市 | 5.00 | 2.88 | 3.00 | 10.88 | 1.65 | 2.00 | 3.00 | 4.23 | | 10.88 |
| 総計 | 286.80 | 109.69 | 49.65 | 446.12 | 89.55 | 72.75 | 125.08 | 137.48 | 21.26 | 446.12 |

別表(5)のうち森林災害保険に加入しているものについては、各森林組合を経由して次のとおり保険金が支払われた。

| 森林組合名 | 罹災面積 | 保険金 |
|---------|--------|---------|
| 阿智村森林組合 | 1.04ha | 22.315円 |
| 千代村 | 4.56 | 67.058 |
| 山本 | 1.82 | 38.818 |
| 松川入 | 8.54 | 120.908 |
| 伊賀良 | 6.23 | 107.465 |
| 飯田市 | 3.61 | 51.838 |
| 下久堅 | 0.33 | 5.677 |
| 上郷村 | 5.54 | 99.796 |
| 清内路村 | 3.75 | 64.467 |
| 浪合村 | 4.79 | 83.689 |
| 喬木村 | 6.86 | 109.781 |
| 下条村 | 0.53 | 12.435 |
| 計 | 47.60 | 784.247 |

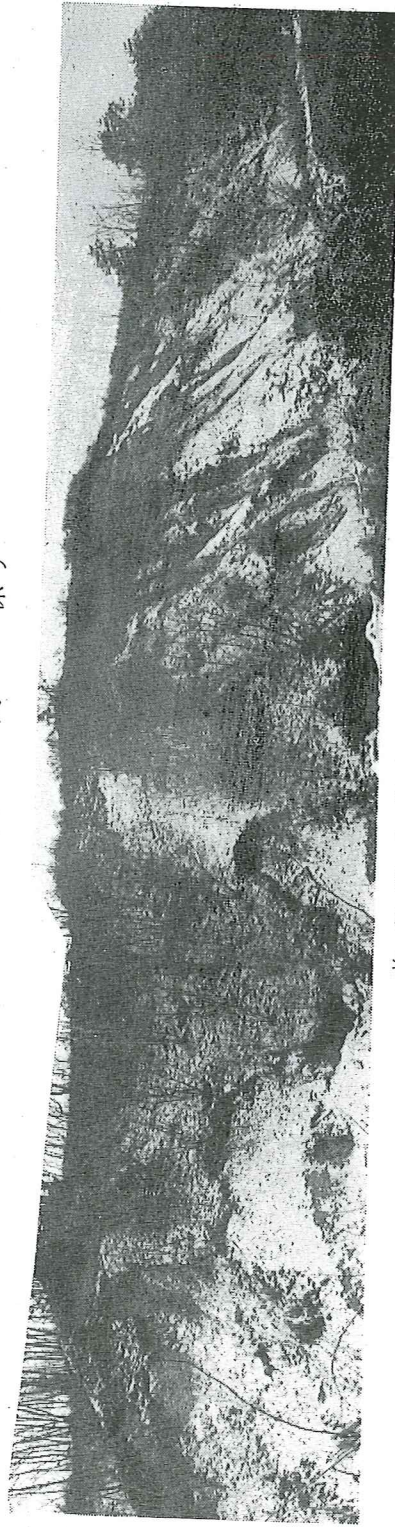
4. 国有林関係

本郡の国有林は大鹿村、上村、南信濃村を主としてその面積26,017ha、又官行造林は浪合村、平谷村、根羽村を主として、その面積9,010haあり、36災については大鹿村が特に被害激甚にして、その被害並びに復旧状況は別表(6)のとおりである。

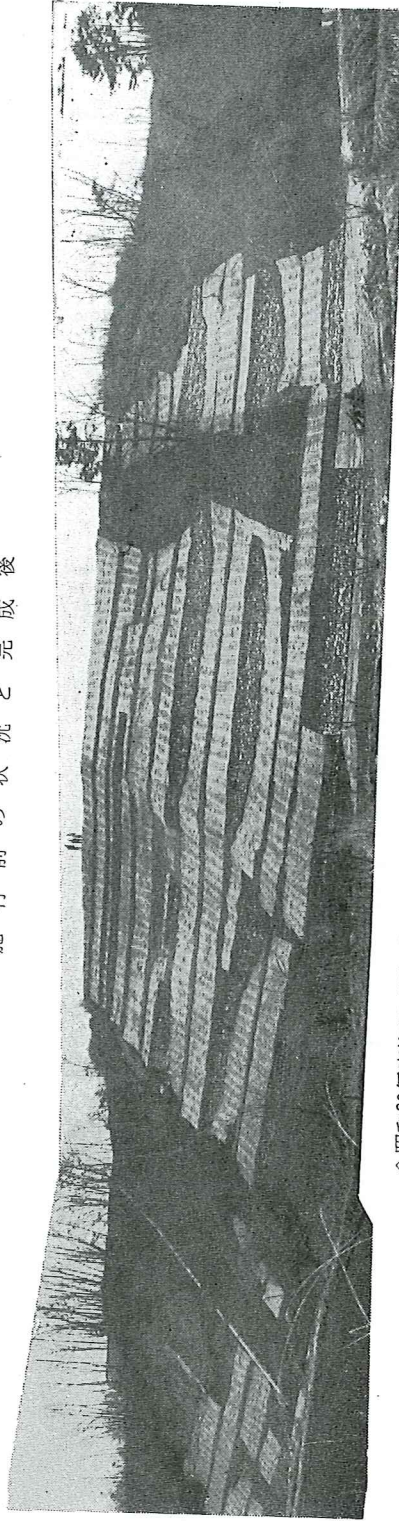
別表(6) 国有林関係治山、林道実績表

| 被害額 | 36年度実績 | | 37年度実績 | | 38年度実績 | | 39年度以降 | |
|------|---------|---------|---------|---------|--------|----------|---------|--------|
| | 千円 | ヶ所 | 千円 | ヶ所 | 千円 | ヶ所 | 千円 | ヶ所 |
| 治山事業 | 460,249 | 124 | 61,634 | 21 | 10,550 | 70 | 149,424 | 54 |
| 林道事業 | 86,722 | 34,979 | 49,915 | 108 | 8,066 | (30,000) | 87,926 | 30,000 |
| 計 | 546,971 | 444,531 | 111,549 | 107,185 | 18,616 | 237,350 | 207,181 | |

(治 山 関 係)



施行前の状況と完成後



- ◆昭和38年度施行（昭和39年3月しゅん功）36災特殊緊急治山事業
- ◆施行ヶ所 飯田市（川路）観音沢 ◆工事施工面積 0.25ha
- ◆主なる工種（コンクリート及び鉄線フロン簾、そだ束による積工）（水路工）
（アカマツ、肥料木の植栽をともなった編柵工、筋工、むしろ伏工）
- ◆工事金額 3,525千円

(林道関係)



不動滝線四工区

施行位置 下伊那郡高森町大字牛牧

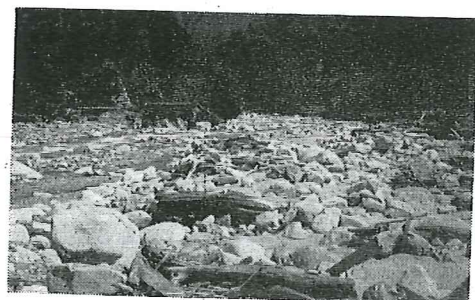
復旧延長 220.0m

工事費 7,200千円

工種 玉石コンクリートようへき

昭和36年度施行

林道不動滝線
被害状況と復旧状況



延長 90m 巾員 4.0m

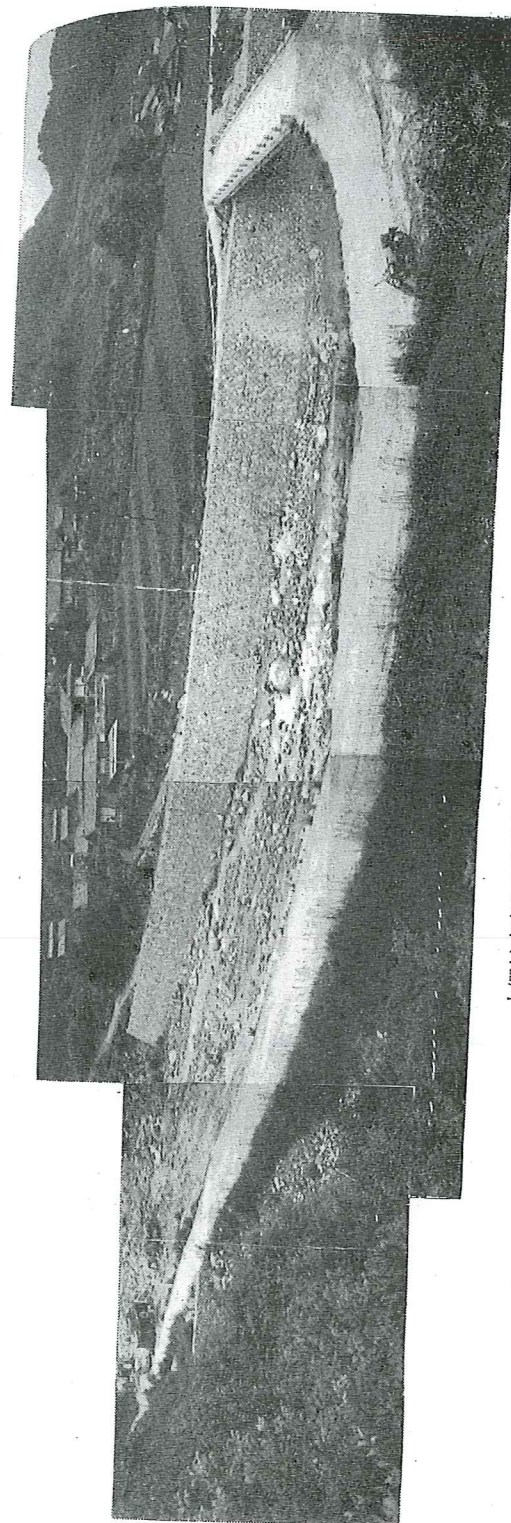
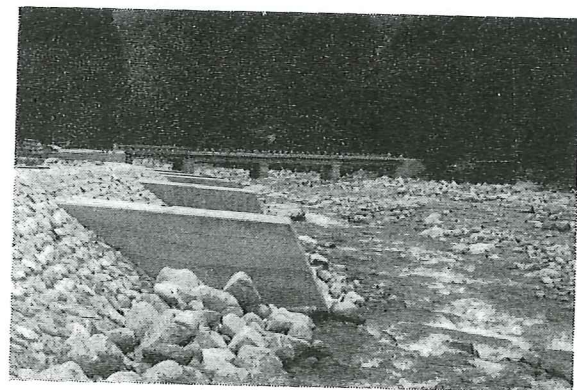
工事費 6,386千円

このうち

鉄筋コンクリートT桁橋

橋長 44.0m 巾員 4.5m

林道本谷線被害状況と復旧



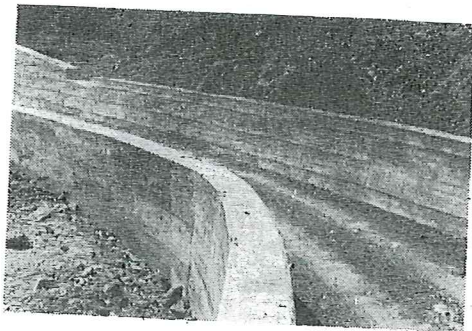
上郷村大字黒田字芦沢口 柳田橋復旧状況

巾員 4.0m 復旧延長 151m (内橋梁長20.2m)

工事費 6,131千円

昭和36年度施行

塩川林道850m地点(駒ヶ根営林署管内)
(37年復旧完成)



被害延長 120m
復旧工事は 粗石コンクリート外
復旧額 2,218千円

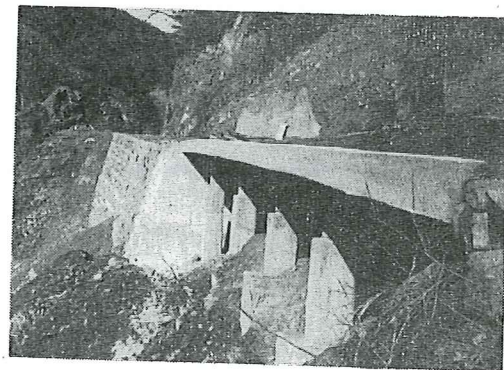
塩川林道 1,100m地点(駒ヶ根営林署管内)
(37年復旧完成)



被害延長 130m
復旧工事は 粗石コンクリート外
復旧額 2,431千円



治山運搬道(園原線)の被害と復旧状況
(飯田営林署管内)



文教社会編

昭和36年6月の所謂梅雨前線による集中豪雨の惨禍は土木、農業、林業関係に甚大なる被害をもたらしたのみでなく、学校等の文教施設、社会福祉施設、商工関係および建築関係にもそれぞれ大きな被害を与えたのである。また、この災害により一般住民の生活にも甚大な影響を及ぼし、災害救助法の適用は勿論、各種の応急救助が実施されたのであるが、以下これを文教関係、厚生関係、商工関係および建築関係に大別し概略を記述する。

1. 概 況

文教関係について

文教施設の被害は12市町村におよび、小中学校21校その総被害額は53,950千円に達した。その被害額の最も大きかった学校は飯田市の川路小学校、全中学校、大鹿村大河原小学校、鹿塩中学校、全鹿塩小学校北川分校および飯田市浜井場小学校、県立飯田風越高等学校であった。なおこの災害においての痛恨事は、

学童10名が幼い尊い命を失い、重傷者1名を出したことである。改めて哀悼の念を捧げるわけである。

災害救助法等厚生福祉 関係について

災害救助法の適用は飯田市他3町8村におよび、応急救助を実施し、また同法の基準に達しない被災町村に対しては、救助法に準じた救助を県単独で実施した。そして被災者の被災事情により避難所、応急仮設住宅等の設置、炊き出し、食品、飲料水、被服、寝具その他生活必需品の支給、児童生徒等への教科書、学用品類の給与、医療、助産、死者の捜索、死体の処理、埋葬、障害物の除去、住宅の応急修理、物資の緊急輸送人夫の備上げ等救助法による応急救助が全面的に実施された。

これ等応急救助活動は、県郡市町村の厚生関係職員を中心として行なわれたが、人手不足を補うため県の出先機関の職員、また自衛隊の応急的応援をえて、万全の配備のもとに実施され早急な救助の手が打たれ効果を収めることが出来た。

なお、また応急救助の内容によっては、一部に限り被害市町村長にその実施を委任して、救助を災害実情に即応させざるの止むなきものもあつた。さらに被害事情が生活等に困窮を生じ、またはその他の援護を必要とする世帯、個人に対しては生活保護法その他の社会福祉法等を適用するなどしてその救済に努め、その他の援護についての相談と更生指導にあつたのである。

商工関係について

商工業の直接的な被害額は4億6,753万円余、間接的な被害額は1億4,000万円余、被害実数は実に2,280企業におよび、1企業当りの被害額は266,000円強達し、かつてない経験をしたのである。これが再建には被害者もこれを指導監督する立場にある者もひとしく、不安と焦そうを覚えたのであるが、全局的な同情と各方面、各関係機関の温なかつ強力な指導協力による物心両面からの支援に支えられ、また政府機関の国民金融公庫の貸付、県金融あつせん制度による融資対策が積極的に行われ、これに加えて税の減免等の特別措置が適切に実施され、被災者の再建意欲の燃え上りとともに生活物資、復旧資材の確保とも相まって着々と復興再建の道を進むことが出来た。

なお復旧に伴なう人的物的資源の需要の増大は、物価、その他の昂騰を招きがちであるが、業界の協力により概ね安定性を保ち、早期再建の要因の一つであつたことも見逃せないことである。

建築関係について

建物の被害は飯田市を始め10ヶ町村におよび、被害戸数は郡市を合せ12,210戸という多数に達した。これに対し関係機関は総力を挙げ被害の早期復興を計るため、災害復興住宅、県費補助住宅、応急仮設住宅等を被災地に建設し、また住宅金融公庫の資金による災害復興住宅については10月初旬に認定を終り、直ちに着工し12月末までに4割の復興建設をみ、全体的にみてこれら各種の住宅の建設補修は、災害直後ただちに着手され36年12月までに8割を完成出来たのであるが、冬期間の悪条件、自己資金の関係、この災害の特殊性

等により他に移転を余儀なくされるものも出て、建築がおくれがちのものもあつたが37年3月頃から軌道にのり、急速に工事が進み4月初旬には一部を除き完了をみた。

なお、これ等の資金の借入については、各市町村とも債務補償をし、被災者は着工前に融資額の6割の融資がうけられ、これがため家屋の復興は一層促進されたのである。

以上は文教社会関係の概況であるが、さらにこれを各関係ごとに詳述する。

2. 文教施設災害と 復旧について

被害学校は別表(1)に示すとおり未曾有の大災害を被つたが、速かに応急措置を講じ教育に支障のないように配慮して、それぞれ復旧工事に着手した。しかしながら、災害のため道路、橋梁の欠損流失等のため登校不能によって授業を休んだ学校は小中学校で33校あつたが、そのうち川路、大河原、鹿塩の小中学校等15校は1週間以上休業するのやむなき状況にあつた。

復旧工事は、公立学校施設災害復旧国庫負担法の適用によって施行したが、文部省の査定官が8月14日から23日までの10日間にわたって現地に出張して厳正な査定が行なわれた。査定は同法によって施設設備工作物等それぞれ10万円以下のものは小災害として国庫負担法の対象外として除外されて、別表(2)の24校が補助工事として施工した。

国庫負担額は災害復旧に要する経費の3分の2を国が負担する規定であるが、同法特別措置法によって同一市町村内の被災額が甚大であると認められた場合には国は4分の3の高率負担をするので、下記市町村はその適用を受けて工事を施行した。

飯田市、竜江村、高森町、豊丘村、上郷村、松川町、鼎町、清内路村、大鹿村、喬木村、徑信濃村、阿智村以上12市町村。

災害復旧については、住宅の流失、浸水や耕地の流失、道路、橋梁、堰防の欠損、流失等広範囲にわたる

未曾有の大災害のため、復旧資材の不足と労働力の限界線もあり容易でなく、技術者の招へいに苦労し、労働者は遠く郡外或いは県外から導入して続行した個所も所々に見受けられたが、公共施設の復旧を優先的に考え、特に学校施設については、関係者の教育を愛する深い理解と住民の復旧に対する強い意欲によって着々と進み、被害学校の大部分は9月末までには概ね復旧したが、大河原小中、鹿塩中、川路小中、浜井場小、向方小、風越高等学校等は被害が甚大であつたため、翌年度に工事を繰延べて施工するのやむなき状態であつた。なお、特に被害の大きかつたものの状況を述べる。

(1) 川路小中学校は、以前から増水時はときどき校舎内に浸水するので、降雨期等における長期の休業の場合は階下の机、腰掛け等一切を階上に運び上げて階下は皆無にして休業する慣例となつておつて、浸水度を玄関の柱にその都度刻み付けて記録に残していたのであるが、今回のように階上まで浸水して流失の寸前となつた事例は未曾有であつた。

同校の復旧については、専らこの際校舎移転の声が起り協議を重ねたところ、校舎移転のことに衆議一決し議会の議決も経たず、移転先については甲論、乙論があり手間取り、ようやく小学校は上平地籍に決定して昭和37年11月着手し、38年9月移転して風光明媚の高台に木の香も新しく立派に復旧した。

(2) 川路中学校は移転問題に関連して、更に統合中学校の建設に意見が飛躍して賛成者が多く、委細研究することになり衆議を重ねた結果、川路中、三種中、竜江中の三校を統合することに議会の議決を経たので飯田市と竜江村とが自治法に基づく一部事務組合を設立して、統合中学校を設立することに決定し、校名は竜峡中学校と命名して事務組合は発足した。

ところが位置の決定となるや幾多の問題が発生して迂余曲折があり容易に決定に至らず長日月を要したが結局現在の藤塚地籍に決定となり、敷地を買収して昭和38年4月着工、39年5月竣工した校舎は鉄筋コンクリートの3階建とし、高い台地に立派に復旧し近代建築様式による近隣に稀れな校舎となつた。

(3) 大鹿村鹿塩小学校北川分校は、鹿塩川の氾濫によって校舎は流失してしまつたので、復旧について慎重協議をしたところ、同部落は耕地が多分に災害を被り流失し、復旧も容易でないため部落民の多くは他の地域に移住を計画するものが多数あるので、将来児童生徒の減少を考慮した結果、再建を取り止め児童生徒は本校に収容することにしたが、その代りに本校の近くに寄宿舎を設け、県の特別補助を受けて建築した。児童生徒等は「禍を転じて福となす」のたとえのごとくに喜々として勉学にいそんでいる現状である。

(4) 浜井場小学校と隣接の風越高等学校の災害は、校庭の欠損、流失して、この復旧工事には河川の改修工事を伴うので、野底川の建設省関係の工事と併行して施行し、河川の堰堤工事と河川兩岸の石積工事により整然となり、以前にまして立派に竣工し、校庭も広くなり復旧工事を完了した。

(5) 大河原小学校は、大西山の崩壊によって大旋風が起り、強風のため体育館の側壁が新築した直後で堅牢ではあつたが、吹き飛ばされて大破し吹き抜けとなつてしまつたので、復旧には約200万余円を要して原形に復した。

(6) 鹿塩中学校は、鹿塩川の氾濫によって上流の堤防が欠壊して、本流が体育館の側壁を破つて突入し、床上全面に土石が充満し2米以上推積したので、これを除去するのに多大の労力を費し、なお床面を張り替え432万余円を投じて完全に復旧することができた。

別表(2) 市町村学校別災害復旧工事国庫補助状況

| 町村名市 | 学校名 | 被害区分 | 工事費 | 補助額 |
|------|---------|-----------|------------|------------|
| 飯田市 | 丸山小 | (校庭)土地 | 540,000円 | 409,000円 |
| 〃 | 川路中 | 設備 | 1,030,500 | 780,600 |
| 〃 | 伊賀良中 | (校庭)土地 | 926,000 | 701,400 |
| 〃 | 川路小 | 建物、土地 | 10,010,500 | 7,582,900 |
| 〃 | 浜井場小 | 土地 | 8,074,000 | 6,116,000 |
| 松川町 | 松川東中 | 土地、建物、工作物 | 4,443,000 | 3,365,500 |
| 〃 | 松川南小 | 工作物 | 521,000 | 394,600 |
| 〃 | 松川中部小 | 〃 | 141,000 | 106,800 |
| 清内路村 | 下清内路小 | 土地、建物 | 601,000 | 455,200 |
| 〃 | 上清内路小 | 土地 | 492,000 | 372,600 |
| 浪合村 | 浪合中 | 〃 | 905,000 | 685,500 |
| 上村 | 上村小中郷分校 | 〃 | 277,000 | 209,700 |
| 大鹿村 | 大河原中 | 土地、建物 | 258,000 | 195,300 |
| 〃 | 鹿塩中 | 土地、建物、工作物 | 4,327,000 | 3,277,600 |
| 〃 | 大河原小 | 土地、建物 | 2,309,000 | 1,749,000 |
| 〃 | 鹿塩小 | 工作物 | 1,050,000 | 795,000 |
| 〃 | 〃沢井分校 | 土地、建物 | 394,000 | 298,400 |
| 〃 | 〃北入分校 | 土地 | 240,000 | 181,800 |
| 〃 | 〃北川分校 | 建物、設備 | 3,653,400 | 2,767,400 |
| 根羽村 | 根羽小 | 土地 | 193,000 | 129,900 |
| 南信濃村 | 和田小 | 建物 | 236,000 | 158,800 |
| 上久堅村 | 上久堅中 | 工作物 | 137,000 | 92,200 |
| 天竜村 | 天竜中 | 建物 | 163,000 | 109,700 |
| 〃 | 向方小 | 建物 | 313,000 | 210,700 |
| 計 | | | 41,234,400 | 31,145,600 |

3. 飯田市の社会教育施設の被害と復興の状況については社会教育施設にあつては、市営野球場と丸山公民館が被害をこうむつた。

(1) 丸山公民館

写真に見られるごとく、1階にはことごとく土砂が流入し、場所によっては天井に届くほどであった。床総面積155坪中に推定2,230㎡の土砂であった。建物は古いが比較的土台がしっかりしていたので、倒れこそ免がれたが掘出して見て再使用に耐え得るかが危ぶまれたが、検討の結果総工事費287万円のうち国庫の

災害補助金1,932,500円を受け、ほぼ原形に復し現在フルに利用されている。

(2) 市営今宮球場

グラウンド内に18,000立米の土砂が流入し、ダックアウトは勿論、スタスの最高段まで土砂に埋つたところもある。流入した土砂が外野フェンスにさえぎられグラウンド内にてうずをまいたため、グラウンド面には不規則な斜面をつくつて土砂が累積した。地下に排水のためのメクラ暗きよがあるで、これが破れていると基礎工事からやり直さねばならぬので、当所は復興できぬとあやぶまれたが、幸にもこれは異常がないとのこと判つたので累積土砂の搬出にかかり、王竜寺川の

氾濫で破成された側の扉を修理し、グラウンド面を整備して37年4月頃よりようやく使用に耐えるまでに復興し、現在では市営唯一の球場として完備して愛用されている。

費用額については、別表(3)のとおりであり、又応急仮設住宅は別表(4)のとおりである。

4. 災害救助法等厚生福祉について

(1) 被害の発生に伴う災害救助法発動

梅雨前線による豪雨は、飯田及び下伊那地方に次々と大きな被害をもたらした。

下伊那地方事務所に設置された、災害対策本部の調査係は、各町村から1時間毎に被害報告を受けていたが、あらゆる手段と方法を用いて被害の収集通報に当り、次々と災害救助法適用基準に達する被害の実態を把あくした順に、県知事より別表(1)のとおり災害救助法が発令された。

別表(1) 災害救助法発令市町村

| 発令日時 | 市町村名 |
|-------------|------|
| 6月28日 1時30分 | 飯田市 |
| 〃 2時10分 | 竜江村 |
| 〃 7時10分 | 高森町 |
| 〃 8時10分 | 豊丘村 |
| 〃 〃 | 上郷村 |
| 〃 9時30分 | 松川町 |
| 〃 17時05分 | 鼎町 |
| 〃 18時20分 | 清内路村 |
| 〃 23時05分 | 大鹿村 |
| 〃 13時30分 | 喬木村 |
| 〃 〃 | 南信濃村 |
| 〃 15時05分 | 阿智村 |

(2) 被災者の応急救助

災害救助法の発動に伴ない、被災状況を適確且つ迅速に把あくして、応急救助活動を開始すると共に、別表(2)の被害状況の確定をみたが、救助内容並びに

別表(2) ○甲災害救助法発令市町村

被害状況調査

(昭和36年8月)

| 市町村名 | 災害者総数 | | 人的被害 | | | 住家の被害 | | | | | | 被害者の被害 | | | 非住家の被害 | | | | | | |
|-------|--------|------|------|-----|-------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|
| | 死亡 | 行方不明 | 重傷 | 負傷 | 合 | 全壊 | | 半壊 | | 浸壊 | | 水害 | | 合計 | | | | | | | |
| | | | | | | 戸数 | 世帯数 | 戸数 | 世帯数 | 戸数 | 世帯数 | 戸数 | 世帯数 | | | 戸数 | 世帯数 | 戸数 | 世帯数 | 戸数 | 世帯数 |
| ○鼎 | 7,541 | 2 | 1 | 2 | 5 | 5 | 13 | 2 | 2 | 206 | 56 | 58 | 244 | 1,500 | 1,570 | 7,067 | 1,607 | 1,685 | 7,536 | 10 | |
| ○松川町 | 5,603 | 7 | 6 | 35 | 49 | 30 | 135 | 29 | 29 | 113 | 23 | 6 | 29 | 989 | 1,034 | 5,159 | 1,077 | 1,122 | 5,554 | 79 | |
| ○高森町 | 2,473 | 10 | 17 | | 28 | 23 | 118 | 42 | 42 | 210 | 97 | 97 | 475 | 360 | 1,440 | | 565 | 565 | 2,445 | | |
| ○阿南町 | 19 | | | | | 1 | 5 | | | 2 | 2 | 2 | 8 | | | | 5 | 5 | 19 | | |
| ○上郷村 | 1,209 | | 5 | | 5 | 3 | 12 | 26 | 29 | 131 | 16 | 16 | 400 | 141 | 150 | 601 | 266 | 279 | 1,259 | 2 | |
| ○清内路村 | 1,178 | 1 | 3 | 15 | 19 | 12 | 65 | 6 | 6 | 65 | 23 | 23 | 116 | 120 | 120 | 900 | 176 | 177 | 1,159 | 8 | |
| ○阿智村 | 969 | 2 | 1 | 2 | 5 | 14 | 48 | 4 | 4 | 24 | 6 | 6 | 349 | 130 | 130 | 530 | 237 | 237 | 964 | | |
| 浪合村 | 555 | | | | | 3 | 16 | 2 | 2 | 4 | | | | 125 | 125 | 535 | 130 | 130 | 555 | 23 | |
| 平谷村 | 228 | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | | | 3 | 3 | 3 | 50 | 200 | 55 | 55 | 228 | 1 |
| 根羽村 | 35 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 6 | | | 5 | 5 | 6 | 6 | 35 | |
| 下条村 | 138 | | | | | 1 | 1 | | | 5 | 5 | 18 | 6 | 6 | 6 | 20 | 81 | 32 | 32 | 138 | 5 |
| 壳木村 | 42 | | | | | | | | | | | | | | | 15 | 15 | 15 | 15 | 42 | |
| 天竜村 | 42 | | | 3 | 3 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 7 | 7 | 7 | 7 | 42 | |
| 泰阜村 | 159 | | 2 | | 2 | 1 | 5 | 5 | 5 | 19 | 9 | 9 | 48 | 6 | 11 | 42 | 9 | 8 | 39 | 1 | |
| 千代村 | 13 | | | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 5 | 2 | 2 | 8 | | 3 | 3 | 13 | 2 | |
| ○竜江村 | 1,227 | 1 | | | 1 | 9 | 43 | | | 13 | 13 | 54 | 98 | 155 | 155 | 698 | 1275 | 275 | 1,226 | 21 | |
| 上久堅村 | 194 | | | | | 4 | 15 | | | 5 | 5 | 19 | | 33 | 33 | 160 | 42 | 42 | 194 | | |
| ○喬木村 | 2,054 | 2 | 3 | 3 | 8 | 14 | 61 | 5 | 5 | 25 | 17 | 17 | 87 | 45 | 45 | 223 | 300 | 381 | 2,046 | 10 | |
| ○豊丘村 | 2,432 | 2 | 4 | 18 | 24 | 18 | 69 | 25 | 25 | 115 | 29 | 29 | 123 | 110 | 115 | 501 | 310 | 492 | 2,408 | 352 | |
| ○大鹿村 | 2,808 | 55 | 42 | 600 | 697 | 66 | 290 | 51 | 53 | 163 | 45 | 4 | 204 | 47 | 52 | 234 | 297 | 506 | 2,411 | 14 | |
| 上村 | 46 | | | 7 | 7 | 4 | 4 | 20 | | 1 | 1 | 2 | | | | 4 | 4 | 9 | 39 | 5 | |
| ○南信濃村 | 651 | | | 13 | 13 | 12 | 12 | 50 | 5 | 32 | | | 54 | 54 | 54 | 224 | 71 | 142 | 638 | 4 | |
| 郡計 | 29,616 | 82 | 84 | 698 | 866 | 221 | 962 | 203 | 208 | 860 | 275 | 283 | 1,255 | 719 | 737 | 3,337 | 4,641 | 6,059 | 6,232 | 28,750 | 546 |
| ○飯田市 | 26,362 | 16 | 19 | 314 | 349 | 218 | 265 | 115 | 62 | 254 | 245 | 264 | 1,211 | 399 | 418 | 1,813 | 5,227 | 6,151 | 6,357 | 26,013 | 489 |
| 合計 | 55,978 | 98 | 2 | 103 | 1,012 | 439 | 490 | 2,117 | 265 | 1,114 | 520 | 547 | 2,466 | 1,118 | 1,155 | 5,150 | 9,868 | 12,210 | 12,589 | 54,763 | 1,035 |

別表(3) 災害救助法による救助概況 (県単独を含む)

| 救助別 | 救助数 | 救助費 | |
|--------------|---------|------------|-----------|
| | | 救助法による | 県単事業 |
| 避難所収容人員 | 92箇所 | 130,580円 | 3,720円 |
| 応急仮設住宅設置数 | 82,831人 | | |
| 炊き出し場所開設数 | 235戸 | 20,222,553 | 620,000 |
| 炊き出し給食人員 | 91箇所 | | |
| 飲料水供給日 | 82,831人 | 2,880,482 | 75,910 |
| 被服寝具その他交付世帯数 | 30日 | 100,190 | 0 |
| 助産件数 | 2,378戸 | 7,865,912 | 243,582 |
| 救出人員 | 2件 | 5,700 | 6,1730 |
| 住宅応急修理戸数 | 3人 | 3,400 | |
| 学用品交付人員 | 145戸 | 2,618,554 | 116,000 |
| 教科書交付人員 | 2,049人 | 298,663 | 6,540 |
| 埋葬件数 | 526人 | 282,975 | 1,353 |
| 死体捜索件数 | 62件 | 131,950 | 0 |
| 死体処埋件数 | 25件 | 64,000 | 0 |
| 障害物除去件数 | 54件 | 25,020 | 0 |
| 輸送費 | 34件 | 166,400 | 0 |
| 人夫費 | | 824,234 | 36,395 |
| 計 | | 455,950 | 34,500 |
| 合計 | | 36,076,563 | 1,144,173 |

別表(4) 災害による応急仮設住宅設置状況 (県単を含む)

| 市町村名 | 応急仮設住宅建設戸数 | 応急仮設住宅下り当時の戸数 | 備考 | |
|-------|------------|---------------|-----------|------------|
| | | | 被害者の都合により | 備考 |
| ○鼎 | 20 | 21 | | |
| ○松川町 | 19 | 19 | | |
| ○上郷村 | 8 | 10 | | |
| ○清内路村 | 5 | 5 | | |
| ○阿智村 | 6 | 8 | | |
| 浪合村 | 1 | 1 | | |
| 平谷村 | 1 | 1 | | |
| 下条村 | 0 | 2 | | |
| 天竜村 | 4 | 4 | | |
| 泰阜村 | 4 | 4 | | |
| ○竜江村 | 8 | 8 | | |
| ○豊丘村 | 10 | 10 | | |
| ○大鹿村 | 70 | 49 | | 上伊那、上郷、松川へ |
| ○南信濃村 | 5 | 5 | | |
| 計 | 161 | 147 | | |
| ○飯田市 | 80 | 76 | | 阿智、天竜へ |
| 総計 | 241 | 223 | | 4戸 |

○印は災害救助法適用市町村である。

別表(6) ヘリコプター実動機数調

| 城 | 下基地 (救援航空隊) | 日本空輸 | 6月 | 7月 | 2日 | 3日 | 4日 | 5日 | 6日 | 7日 | 8日 | 9日 | 10日 | 11日 | 12日 | 13日 | 14日 | 21日~28日 | 計 | |
|---|----------------|------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|---------|----|-----|
| | | | 30日 | 1日 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 城 | 下基地 (救援航空隊) | 日本空輸 | 実 | 2 | 5 | 2 | 4 | | 4 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | | 1 | 134 |
| | | | 延 | 2 | 10 | 7 | 27 | | 24 | 11 | 21 | 12 | 6 | 2 | | | | | 〃 | |
| 松川中学校基地 {第一航空隊 ヘリコプター隊 航空学校分校} | 下基地 (救援航空隊) | 日本空輸 | 実 | | | 12 | 12 | 6 | 6 | 5 | 12 | 8 | 7 | 4 | 4 | 4 | 4 | | | 300 |
| | | | 延 | | | 30 | 37 | 15 | 42 | 9 | 22 | 24 | 25 | 14 | 19 | 21 | 22 | 20 | | |
| 天竜高校基地 (米軍航空隊) | 下基地 (救援航空隊) | 日本空輸 | 実 | | | 6 | 6 | 6 | | | | | | | | | | | | 77 |
| | | | 延 | | | 34 | 23 | 20 | | | | | | | | | | | | |
| 中川東中学校基地 {第一航空隊 ヘリコプター隊} | 下基地 (救援航空隊) | 日本空輸 | 実 | | | | | | 13 | 6 | 4 | 4 | 3 | | | | | | | 61 |
| | | | 延 | | | | | | 23 | 11 | 9 | 12 | 6 | | | | | | | |
| 合 | 計 | 日本空輸 | 実 | 2 | 5 | 20 | 22 | 12 | 10 | 21 | 20 | 14 | 14 | 12 | 4 | 4 | 4 | 4 | 1 | 572 |
| | | | 延 | 2 | 10 | 71 | 87 | 35 | 66 | 43 | 54 | 45 | 43 | 22 | 19 | 21 | 22 | 20 | 12 | |

別表(7) ヘリコプター輸送実績

(単位 kg)

| 市町村名 | 人 | 米 | 味噌 | 醤油 | 塩 | 野菜 | 乾パン | 麦類 | その他 の食糧 | 衣類 | 救護 物資 | 日用品 | 薬品 | C A C | 器材 | 建設 資材 | 復旧 資材 | 石油 | その他 | 合計 |
|----------|-----|--------|-------|----|---|--------|-----|-------|------------|-------|----------|-------|-------|----------|-------|----------|----------|-------|-------|---------|
| 松川 | | 1,800 | | | | | | 1,200 | | | | 1,000 | | | | | | | 2,000 | 6,000 |
| 阿南 | | | | | | | | | | | | 31 | | | | | | | | 31 |
| 清内路 | 1 | 5,340 | | | | | 115 | | 177 | 309 | 200 | 345 | 20 | 100 | | | | | | 6,606 |
| 阿智 | | 600 | 170 | | | 40 | | | | | | | | | | | | | | 810 |
| 天竜 | | | 122 | | | | | | | 286 | | | | 150 | | | | | | 558 |
| 泰阜 | | | | | | | | | | | | 83 | | | | | | | | 83 |
| 大鹿 | 372 | 20,320 | 2,452 | | | 11,180 | 345 | 1,335 | 2,436 | 963 | 4,974 | 829 | 3,401 | 383 | 3,515 | 12,093 | 4,467 | 4,387 | 849 | 73,929 |
| 南信濃 | 1 | 7,520 | 30 | | | | 138 | | | 413 | 446 | 303 | 60 | | | | 4,282 | | 580 | 6,222 |
| 上 | | | | | | | | | | 181 | 90 | 110 | 326 | | | 840 | | | 600 | 9,697 |
| 郡 | 374 | 35,580 | 2,774 | | | 11,220 | 598 | 2,535 | 2,613 | 2,152 | 5,710 | 2,701 | 3,807 | 633 | 3,515 | 12,933 | 8,749 | 4,387 | 4,029 | 103,936 |
| 飯田 | | 180 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 180 |
| 飯田・郡合計 | 374 | 35,760 | 2,774 | | | 11,220 | 598 | 2,535 | 2,613 | 2,152 | 5,710 | 2,701 | 3,807 | 633 | 3,515 | 12,933 | 8,749 | 4,387 | 4,029 | 104,116 |
| 上伊那郡中川村 | | 8,772 | 1,649 | | | 850 | 369 | 40 | | 2,442 | 1,817 | 800 | 159 | | 8 | | 1,179 | | 300 | 18,385 |
| 上伊那・下伊那計 | 374 | 44,532 | 4,423 | | | 12,070 | 967 | 2,575 | 2,613 | 4,594 | 7,527 | 3,501 | 3,966 | 633 | 3,523 | 12,933 | 9,928 | 4,387 | 4,329 | 122,501 |

(4) 下伊那福祉事務所、及び
地方事務所厚生課業務関係

(イ) 生活保護法関係

災害による被災者の生活保護法の適用は、36年6月災害時に、301世帯1,281名に及んだが、世帯の移住又は自立更生により、39年3月末日には1世帯1名の老人世帯のみとなり現在に至る。

(ロ) 児童福祉法関係

災害により両親を失った孤児の状況災害時9名は4年後の成長を示している。

竜江村 9才(男)5才、12才(女)叔父、従兄又は篤志協力者方で養育され入学、進級、進学中。

高森町 10才(男)8才、5才(女)祖母方で養育され入学、進級、進学中。

大鹿村 18才(女)名古屋市日東毛織KKに勤務

松川町 18才(男)飯田建設事務所勤務

鼎町 18才(女)大分県竹田市在住の藤本氏に嫁ぐ。

(5) 飯田市福祉事務所関係

(イ) 生活保護法関係

| | | |
|------|-------|------|
| 旧市地区 | 61世帯 | 244人 |
| 川路 | 12 " | 48 " |
| 竜丘 | 10 " | 37 " |
| 松尾 | 8 " | 28 " |
| 伊賀良 | 7 " | 36 " |
| 山本 | 1 " | 3 " |
| 座光寺 | 3 " | 11 " |
| 下久堅 | 3 " | 14 " |
| 計 | 105世帯 | 421人 |

水害当時家財流失、家屋の被害等により稼働出来なく、住居の復旧に全力を上げた為に、一時的に生活困窮者が続出したので、これが保護に万全を期し上記の様な被保護世帯が出来たのであり、7月末には既に5世帯が自活の方途を講じ自立し、8月末には全体の80%が自活可能となり自立したのである。

10月末には13世帯を残すのみでいづれも自活し、3

月末にはこれら世帯も更生し、老人ホームに収容された2名の長期保護を残すのみとなり、9ヶ月の経過により水害による保護世帯は全面的に立ち直った。

これに要した保護費の総費は医療扶助費を除き、1,985,000円余を支出している。

(ロ) 児童福祉法関係

▶母子寮の被害の状況

飯田市丸山3区に定員30名の市立今宮母子寮があったが、これが36年6月28日流出土砂により居住不能に陥り、28日今宮神社に避難、同年7月6日羽場公会堂に移り、母子寮は廃止したため入寮者はそれぞれ自活の方途を講じ、全年12月29日一部他へ転出したものもあるが大部分は市内松尾の北の原住宅団地に移住、それぞれ自立に向って努力を続けている状況である。

▶災害孤児の状況

当時の孤児数

3名 当時高校生男子 1名
中学生男女 2名 いずれも兄弟妹

現況

◎男子 1名(21才)飯田工高卒業、東京都の運輸会社に勤務中

◎女子 1名(18才)東京都(姉宅)高校3年在学中

◎男子 1名(16才)上郷村(兄宅)高校2年在学中

5. 商工関係について

(1) 災害の既況

商工業関係企業の被害総額は、4億6,753万余円、被害件数2,280件に達し殆ど飯田、下伊那全域に及んでおり、商業の2億1,400万円余の2,025件、工業では2億5,349万円余の255件となっている。これを業種別にとると次表のとおりである。

(単位千円) 総額 災害 被害

| 被害種別 | 被害額 | 全壊 | | 半壊 | | 壊 | | 流失 | | 床上浸水 | | 床下浸水 | | 機械 | 品製半製品含む | 原材料 | 商品 | その他 | 計 | 企業数 | |
|----------------------|-----|----|-----------|----|------------|----|-----------|-----|------------|-------|--------------|--------|--------|--------|---------|-------|--------|--------|---------|---------|-------|
| | | 標数 | 金額 | 標数 | 金額 | 標数 | 金額 | 標数 | 金額 | 標数 | 金額 | 標数 | 金額 | | | | | | | | |
| 機械金属工業 | | 4 | 8,600 | 6 | 2,700 | | | | | 2 | 100 | 7 | 60 | 14,990 | 10,000 | 5,200 | | 6,498 | 44,248 | 18 | |
| 木工業 | | 5 | 2,730 | 1 | 100 | 25 | 18,715 | 28 | 1,686 | 49 | 2,220 | 37 | 547 | 15,305 | 22,371 | | | 7,374 | 108,048 | 85 | |
| 繊維業 | | 5 | 2,150 | 14 | 17,050 | 7 | 3,130 | 6 | 360 | 32 | 940 | 5,744 | 4,815 | 3,943 | | | | 1,465 | 39,597 | 55 | |
| 食料品工業 | | 9 | 10,610 | 9 | 3,810 | 3 | 1,350 | 15 | 1,270 | 55 | 560 | 18,636 | 4,709 | 8,400 | | | | 2,242 | 51,589 | 59 | |
| 化学工業 印刷業 その他工業 | | | | 1 | 200 | | | 9 | 640 | 5 | 270 | 855 | 1,980 | 5,080 | | | | 987 | 10,012 | 38 | |
| 小計 | | | 23,24,090 | | 31,23,860 | | 35,23,195 | | 60,4,056 | | 148,4,050 | | 73,774 | | 36,909 | | 44,994 | | 18,566 | 253,494 | 255 |
| 卸業 | | 6 | 5,800 | 5 | 2,450 | 3 | 1,600 | 8 | 820 | 70 | 600 | | | | | | | 34,224 | 47,073 | 84 | |
| 小売業 | | 48 | 7,460 | 75 | 12,670 | 3 | 16,450 | 208 | 19,050 | 1,429 | 12,597 | | | | | | | 69,272 | 143,759 | 1,785 | |
| サービス業 | | 13 | 620 | 9 | 1,020 | 6 | 2,300 | 30 | 2,970 | 104 | 1,297 | | | | | | | 11,429 | 23,208 | 156 | |
| 小計 | | | 67,13,880 | | 89,16,140 | | 40,20,350 | | 246,22,840 | | 1,603,14,494 | | | | | | | | 114,925 | 214,040 | 2,025 |
| 合計 | | | 90,37,970 | | 120,40,000 | | 75,43,545 | | 306,26,896 | | 1,751,18,544 | | 73,774 | | 36,909 | | 44,994 | | 114,925 | 467,534 | 2,280 |

(2) 復興対策

これらの被害に対する早期再建の重点対策として、下伊那地方事務所は

(イ) 資材及び消費物資の高騰による一般住民の不安を除去するために、飯田商工会議所及び下伊那郡商工連合会と共に業種別販売業組合及び業者代表等を招き、諸物価高騰の防止を要請すること。

(ロ) 再建資材の在庫調査と、鉄道の早期復旧による輸送の強化対策を要請すること。

(ハ) 商工業施設の復旧及び運転資金の早期貸付に要する枠の大巾拡大の方途を講じ、県制度による金融あつせんの特別措置を講ずると共に、国民金融公庫伊那支所の協力を求めて、現地における融資説明を実施すること。

等であつて、これらの復興対策が順調に進展するに伴って被害者の動揺は漸次安定し、旺盛な再建意欲を方向付けることができた。

即ち、(イ)と(ロ)の項においては、6月29日以後数回にわたって関係業界等の代表者について高騰抑制の状況物資入荷の現況、応急建設資材の受注状況等の具体的な協議と方途を進める一方下伊那地方事務所、飯田建設事務所、長野県建設業協会下伊那支部、飯田線北部管理室及び関係業界等々の合同連絡会議による推進対策により、物資の高騰は輸送費に関連して若干の値上りをみたのみで、殆ど平常価格が持続された。業界はこれらの災害対策に卒先呼応し、各店頭で「平常物価販売」等の貼り紙を表示し自粛を共励し、人心の不安一掃に協力した。

国鉄飯田線は、6月27日から土砂崩壊、鉄道の欠壊により運行不能となり、加えて主要道路の寸断による貨物自動車の運休等更に停電、電話の不通による連絡途絶による復興資材、生活物資の搬入に深刻な打撃を受けたのであるが飯田線は7月11日開通し、主要道路は自衛隊及び建設業界必死の作業によって早期に解決することができた。

(ハ)の項においては、県の制度金融対策において小企業振興資金の申込み期限の延長、災害特別融資の設

定、機械購入資金等の優先取扱いを施して積極且つ有効的な利用について、7月4日説明班を編成し各被害地の市町村当局及び商工会の協力により、その趣旨の徹底に努めた。

国民金融公庫伊那支所は、6月30日現地実情調査並びに融資説明に来郡し、災害に対する大巾な資金の用意を明らかにして、その迅速処理に努力した。

この結果、災害の2ヶ月後にはその大部分の工場等は概ね正常に復した。

以上の災害復旧に要した資金のあつせん額は次表のとおりである。

災害復旧資金融資あつせん状況

(単位千円)

| 市町村 | 特別融資 | | 小企業(二種) | | 機械購入 | | 国民金融公庫 | | その他 | | 合計 | |
|-----|------|--------|---------|--------|------|-------|--------|--------|-----|-----|-----|---------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 県 | 9 | 3,250 | 4 | 1,780 | 4 | 1,780 | 16 | 4,780 | | | 33 | 11,388 |
| 松川 | 3 | 1,500 | 4 | 1,980 | 1 | 480 | 31 | 2,500 | | | 39 | 6,460 |
| 高森 | 3 | 1,700 | 2 | 1,300 | 1 | 500 | 37 | 12,030 | 1 | 500 | 44 | 16,030 |
| 上郷 | 7 | 2,030 | 4 | 1,510 | 2 | 200 | 10 | 1,250 | | | 23 | 4,990 |
| 阿智 | | | | | 1 | 144 | 7 | 1,950 | | | 8 | 2,094 |
| 下条 | 1 | 300 | | | | | | | | | 1 | 300 |
| 竜江 | 2 | 1,300 | | | 2 | 1,000 | 5 | 500 | | | 9 | 2,800 |
| 喬木 | 2 | 1,300 | 2 | 1,100 | 1 | 500 | | | | | 5 | 2,900 |
| 豊丘 | 5 | 890 | 1 | 180 | | | 12 | 4,900 | | | 18 | 5,970 |
| 大鹿 | 13 | 6,000 | | | | | 3 | 500 | | | 16 | 6,500 |
| 上 | 1 | 1,000 | | | | | | | | | 1 | 1,000 |
| 南信濃 | | | | | 1 | 480 | | | | | 1 | 480 |
| 飯田 | 26 | 16,650 | 14 | 7,360 | 3 | 1,216 | 135 | 46,740 | | | 178 | 71,966 |
| 合計 | 72 | 35,920 | 31 | 15,210 | 16 | 6,098 | 256 | 75,150 | 1 | 500 | 376 | 132,878 |

(3) 県税関係災害対策

被災者に対する県税関係の応急措置は、長野県県税条例による納期限の延長、税の減免、徴収猶予、換価猶予等で、納期限の延長については、8月31日納期の個人事業税を全管内1円に1か月の延長を行なったほか直接被災者に対し更に1か月の延長をし、料理飲食等消費税、自動車税、軽油引取税、不動産取得税、法人県民税、法人事業税等について、それぞれ1か月から3か月延長の措置をとった。

この状況は別表(1)のとおり。また税の減免については、速かな現地調査を実施して、減免対象者を把握するとともに個人事業税、自動車税の減免、料理飲食等消費税の納入義務免除を実施した。この状況は別表(2)のとおりである。

このほか不動産取得税については、罹災家屋の代替取得について、被災時を起点として満3か年以内の取得の場合、全額免除の措置をとっている。この状況は別表(3)のとおりである。

なお、市町村民税とあわせ賦課徴収される個人の県民税については、市町村民税と全く同様に各市町村において納期限延長、減免等が行われた。

天竜川水系災害対策補償交渉について

飯田市は、天竜川筋の中部電力株式会社所有に係る泰早発電所に係る昭和36年6月梅雨前豪雨時の水害問題（以下水害問題という）について解決の為、昭和36年10月より専門委員会「飯田市天竜川水系災害対策委員会」を設け、事務局を復興事務局内に置き、被害の調査、県泰早対策委員会との連絡、中部電力株式会社との補償交渉等事務の推進を計った。

昭和38年3月22日、長野県知事と飯田市外関係4ヶ町村（高森町、竜江村、喬木村、上郷村）との間に取り交した協定書に基づき、中部電力株式会社より補償金3億7千3百万円也（以下解決金という）を支出させ、天竜川水域の住民生活と発電事業の両全を期す事となり凡べて円満に解決した。水害問題解決金配分明細については、別添表のとおりである。

水害問題解決金配分明細表

(1) 昭和36年6月災泰早ダム水害問題解決金関係市町村配分金

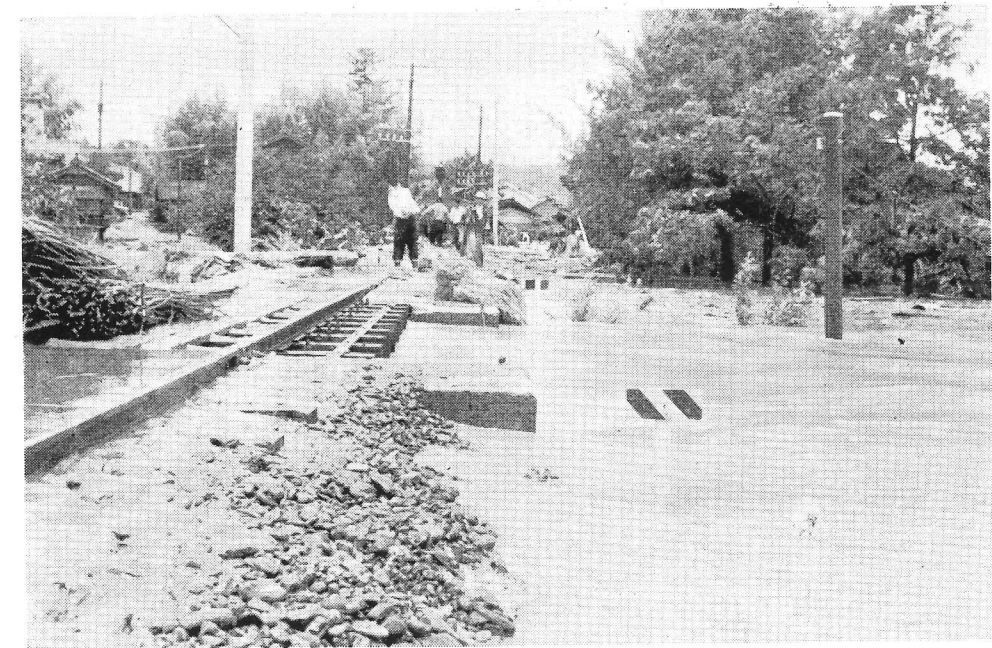
| | |
|---|-----------------|
| 全 | ¥ 368,000,000円也 |
| 上 | ¥ 5,000,000円也 |
| 合 | ¥ 373,000,000円也 |

(2) 解決金及事務費関係市町村別配分額表

| | 飯田市 | 竜江村 | 上流4ヶ村 | 計 |
|-------|-------------|------------|------------|-------------|
| 一般関係分 | 108,893,000 | 14,629,000 | 18,478,000 | 143,000,000 |
| 家屋関係分 | 206,892,000 | 18,108,000 | | 225,000,000 |
| 事務費 | 3,395,000 | 473,000 | 1,132,000 | 5,000,000 |
| 計 | 319,180,000 | 33,210,000 | 20,610,000 | 373,000,000 |

(3) 飯田市関係各地区別解決金配分額表

| | 川 | 路 | 竜 | 丘 | 松 | 尾 | 下 | 久 | 堅 | 座 | 光 | 寺 | 計 |
|-------|-------------|-------------|------------|------------|------------|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 一般関係分 | 51,128,000 | 297人 | 14,617,000 | 141人 | 30,812,000 | 276人 | 6,456,000 | 91人 | 5,880,000 | 117人 | | | 108,893,000 |
| 家屋関係分 | 移転費 | 125,434,700 | 38,479,800 | 27,843,600 | 6,499,700 | 6,499,700 | 6,499,700 | 6,499,700 | 6,499,700 | 6,499,700 | 6,499,700 | 6,499,700 | 198,257,800 |
| | 移転戸数 | 120戸 | 50戸 | 31戸 | 6戸 | 6戸 | 6戸 | 6戸 | 6戸 | 6戸 | 6戸 | 6戸 | 207戸 |
| | 補修費 | 2,496,900 | 3,176,300 | 2,254,900 | 706,100 | 706,100 | 706,100 | 706,100 | 706,100 | 706,100 | 706,100 | 706,100 | 8,634,200 |
| | 補修戸数 | 36戸 | 32戸 | 59戸 | 7戸 | 7戸 | 7戸 | 7戸 | 7戸 | 7戸 | 7戸 | 7戸 | 184戸 |
| 合計 | 127,931,600 | 156戸 | 41,656,100 | 82戸 | 30,098,500 | 90戸 | 7,205,800 | 13戸 | 7,205,800 | 13戸 | | | 206,892,000 |
| 合計 | 179,059,600 | | 56,273,100 | 60,910,500 | 13,661,800 | 5,880,000 | 13,661,800 | 13,661,800 | 13,661,800 | 13,661,800 | 13,661,800 | 13,661,800 | 315,785,000 |



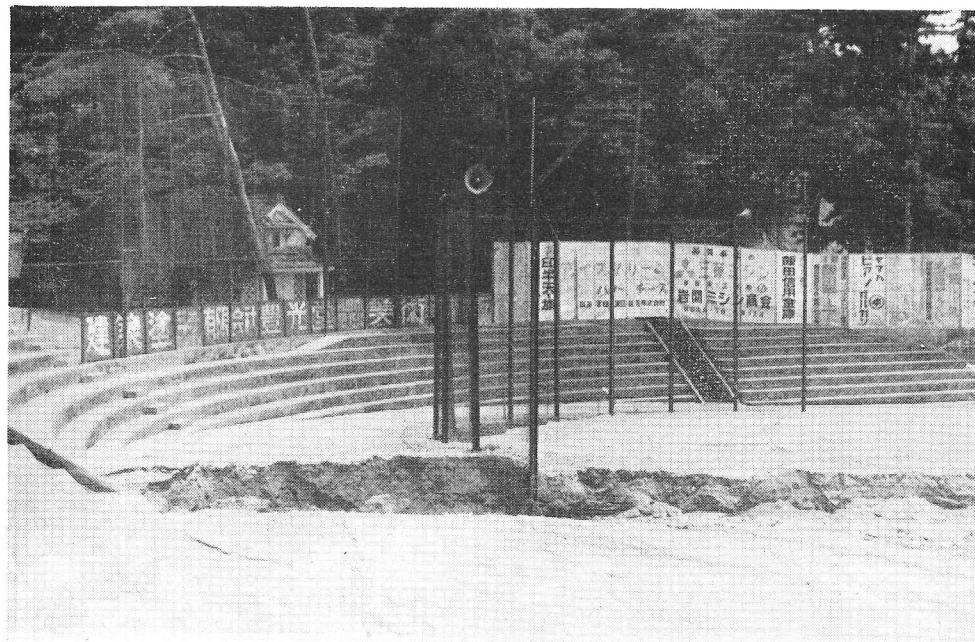
濁水に深く沈んだ飯田線鉄道



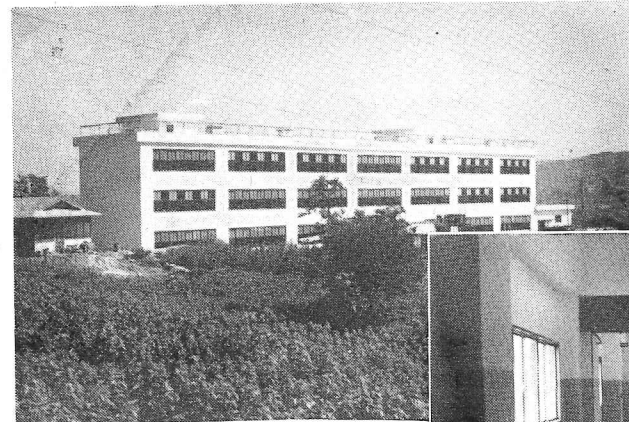
浸水した川路小、中学校（土台から6.45m浸水）



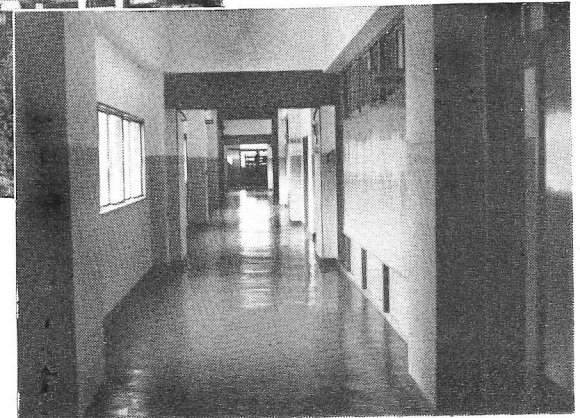
山くずれにより王竜寺川も大氾らん……自衛隊の活躍



球場全面に土砂が侵入した今宮市営球場



藤塚地籍に移転改築した
竜峡（統合）中学校とその内部



大西山の大崩落による強風のため
破壊された大河原小学校体育館



鹿塩川のはんらんによって鹿塩中
学校の体育館に濁流が突入した。

編集後記

今回伊那谷36災害復興感謝祭が、上下伊那郡市共催で挙行されるにあたって、関係者間でこの祭典の参加者に配布し、かつ記録として後々の人に残すための資料として「災害復興記録」の発刊が決定され、6月11日市側、町村会側及び地方事務所、建設事務所の関係各課長による第1回編集委員会が開かれ大綱が決められ、直ちに地方事務所、建設事務所の関係課を中心にして、資料類の収集整理、原稿の作成、登載写真の選択、撮影にとり組み、それぞれ日常業務の寸暇を重ね重ねて大車輪の努力を傾けて、7月末日に土木編、林業編、農業編、文教社会編の脱稿をみ、8月5日、第2回目の編集委員会で詳細な検討を加えて漸く上梓の運びとなったものであります。ご覧頂いておわかりになるように、この記録の眼目は災害状況、その対策及び復興状況を中心に収録、またなるべくその対比を一目で理解して頂くために、災害時と復興時の写真も同一角度から撮影したものを掲載するように心を配ったつもりであります。

然し何分にも膨大な資料を、限られた紙数のうちに収めなければならなかったため、真に価値ある資料のみに絞るため、編集委員は非常な努力を傾けたわけがあります。印刷所へ送り込みの期日に迫られ、内容整備と体裁をととのえる充分の余裕がなかったために、ご閲覧の皆さまのご叱声を頂く点も少ないことと汗顔に存じますが、何卒ご寛容くださいますようお願い致します。

なお、上伊那郡市関係のものが一部登載されているのみであります。資料作成期日の関係で間合いかねて、割愛せざるをえなかったことはまことに残念に存じ、かつ申し訳なく思っております。この方の分は後日稿を改め、詳細上梓「上伊那編」として上伊那郡市関係者によって発刊される予定になって居りますことを附記いたす次第であります。

この記録の作成にあたって、各種関係機関等各位のご指導とご協力を得ましたことを、ここに改めて厚くお礼を申し上げます。

昭和39年9月

編集者

昭和36年6月梅雨前線豪雨災害復旧進捗状況総括表

1, 河川、砂防、道路、橋梁等等災害復旧状況 (土木編資料)

(昭和39年3月末現在) 金額 () 内は関連費 (単位千円)

| 工 種 | 査 定 額 | | | 36年度実施 | | | 37年度実施 | | | 38年度実施 | | | 38年度までの実績 | | | 39年度実施予定 | | | |
|-----------|-------|-----------|-----------|--------|-------------|-----------|--------------|--------------|-----------|-------------|-------------|-----------|--------------|----------------|---------------|----------|---------|-----------|----|
| | カ所数 | 金 額 | % | カ所数 | 金 額 | % | カ所数 | 金 額 | % | カ所数 | 金 額 | % | カ所数 | 金 額 | % | カ所数 | 金 額 | % | |
| 県 河 川 | 491 | 6,317,969 | | 160 | 1,791,953 | 28 | (110) 254 | 2,212,019 | 34 | (71) 178 | 1,706,462 | 27 | (181) 592 | 5,710,434 | 90 | 80 | 607,535 | 10 | |
| 市町村工事 | 砂 防 | 28 | 458,504 | | 3 | 129,843 | 28 | (7) 14 | 241,412 | 52 | (4) 13 | 72,114 | 16 | (11) 30 | 千円 443,369 | 96 | 9 | 15,135 | 4 |
| | 道 路 | 822 | 1,384,708 | | (15) 296 | 318,439 | 22 | (129) 396 | 401,833 | 29 | (12) 197 | 252,809 | 19 | (156) 889 | 973,312 | 70 | 89 | 411,627 | 30 |
| | 横 梁 | 159 | 375,953 | | (12) 56 | 77,638 | 20 | (34) 90 | 186,797 | 50 | (4) 42 | 75,130 | 20 | (50) 188 | 339,566 | 90 | 21 | 36,388 | 10 |
| | 合 計 | 1,500 | 8,537,134 | | (27) 515 | 2,317,873 | 28 | (280) 754 | 3,042,061 | 35 | (91) 430 | 2,106,515 | 24 | (398) 1,699 | 7,466,681 | 87 | 199 | 1,070,685 | 13 |
| 建設省直轄河川工事 | 30 | 1,005,500 | | 21 | 699,500 | 70 | 19 | 305,000 | 30 | 0 | 0 | 0 | 延40 | 1,004,500 | 100 | 0 | 0 | 0 | |

備 考 1. 建設省個所数は、36年と37年に重複するものがあるため、査定額個所に合致しないものである。
2. 査定額より36年度及び37年度の合計が1,000千円多いのは予算が残ったためである。

2, 耕地関係災害復旧状況 (農業編資料)

| 種 別 | 査 定 額 | | 36 年 度 | | | 37 年 度 | | | 38 年 度 | | | 38年度までの実績 | | | 39 年 度 以 降 | | |
|-----|--------------------|------------------------|-----------------|-----------|----|------------------|-----------------------|----|-----------------|---------------------|----|--------------------|-----------|----|-----------------|----------|----|
| | ヶ所 (数量) | 金 額 | ヶ所 (数量) | 金 額 | % | ヶ所 (数量) | 金 額 | % | ヶ所 (数量) | 金 額 | % | ヶ所 (数量) | 金 額 | % | ヶ所 (数量) | 金 額 | % |
| 農 地 | 424 (6,592反) | 1,460,514 | 124 (2,008) | 383,996 | 26 | 199 (2,907) | 688,164 | 44 | 68 (720.0) | 247,519 | 11 | 391 (5,635) | 1,319,679 | 81 | 33 (957.0) | 140,835 | 19 |
| 施 設 | 1,347 (286,205) | (168,475) 2,658,161 | 348 (66,889) | (36,013) | 24 | 478 (134,471) | (79,993) 1,093,383 | 35 | 293 (40,441) | (41,003) 468,040 | 22 | 1,119 (241,801) | (157,009) | 81 | 228 (44,404) | (11,466) | 19 |
| 合 計 | 1,771 | 4,287,150 | 472 | 1,079,551 | 25 | 677 | 1,861,540 | 38 | 361 | 756,562 | 20 | 1,510 | 3,697,653 | 83 | 261 | 589,497 | 17 |

3, 林務関係災害復旧状況 (林業編資料)

| 種 別 | 査 定 額 | | 36 年 度 実 績 | | | 37 年 度 実 績 | | | 38 年 度 実 績 | | | 38年度までの実績 | | | 39 年 度 以 降 | | | |
|-----------------|------------|---------------------|------------|-------------------|---------|------------|-----------------|---------|------------|--------|---------|-----------|-------------------|---------|------------|--------|---------|------|
| | カ所 | 金 額 | カ所 | 金 額 | % | カ所 | 金 額 | % | カ所 | 金 額 | % | カ所 | 金 額 | % | カ所 | 金 額 | % | |
| 県 工 事 | 治山事業 特殊 緊急 | 340 | 1,029,000 | 49 | 137,569 | 13.4 | 85 | 237,596 | 23.1 | 79 | 250,985 | 24.4 | 213 | 626,150 | 60.9 | 127 | 402,850 | 39.1 |
| | 林 道 事 業 | 353 | 379,635 | 88 | 101,171 | 26.6 | 84 | 102,183 | 26.9 | 131 | 122,763 | 32.3 | 303 | 326,117 | 85.8 | 50 | 53,518 | 14.2 |
| | 合 計 | 693 | 1,408,635 | 137 | 238,740 | 16.9 | 169 | 339,779 | 24.1 | 210 | 373,748 | 26.5 | 516 | 952,267 | 67.5 | 177 | 456,368 | 32.5 |
| 管直轄 林務 局事 | 治 山 事 業 | 124 | 347,798 | 43 | 61,634 | 17.7 | 21 | 77,240 | 22.2 | 6 | 10,550 | 3.1 | 70 | 149,424 | 43.0 | 54 | 198,374 | 57.0 |
| | 林 道 事 業 | 34,979 ^m | 96,733 | (30,000) 4,871 | 49,915 | 51.6 | (30,000) 108 | 29,945 | 31.0 | 30,000 | 8,066 | 8.3 | (30,000) 4,979 | 87,926 | 90.9 | 30,000 | 8,807 | 9.1 |
| | 合 計 | | 444,531 | | 111,549 | 25.1 | | 107,185 | 24.1 | | 18,616 | 4.2 | | 237,350 | 53.4 | | 207,181 | 46.6 |

昭和36災害復興感謝祭が、上下伊那郡市共催
るにあたって、関係者間でこの祭典の参加
、かつ記録として後々の人に残すための資
「災害復興記録」の発刊が決定され、6月11
村会側及び地方事務所、建設事務所の関係
る第1回編集委員会が開かれ大綱が決めら
地方事務所、建設事務所の関係課を中心に
類の収集整理、原稿の作成、登載写真の選
とり組み、それぞれ日常業務の寸暇を重ね
輸の努力を傾けて、7月末日に土木編、林
編、() 社会編の脱稿をみ、8月5日、第2
委員会にて詳細な検討を加えて漸く上梓の運
送の運びとなりました。ご覧頂いておわかりにな
この記録の眼目は災害状況、その対策及び
中心に収録、またなるべくその対比を一目
頂くために、災害時と復興時の写真も同一
撮影したものを掲載するように心を配ったつ
ます。
にも膨大な資料を、限られた紙数のうちに
ばならなかったため、真に価値ある資料の
ため、編集委員は非常な努力を傾けたわけで
印刷所へ送り込みの期日に迫られ、内容整
ととのえる充分の余裕がなかったために、
皆様のご叱声を頂く点も少ないことと汗顔
が、一卒ご寛容くださいますようお願い致

上下伊那郡市関係のものが一部登載されてい
ますが、資料作成期日の関係で間合いかね
ざるをえなかったことはまことに残念に存
し誤なく思っております。この方の分は後
、詳細上梓「上伊那編」として上下伊那郡市
て発行される予定になって居りますこと
次第であります。
もの作成にあたって、各種関係機関等各位の
協力を得ましたことを、ここに改めて厚く
あげます。

昭和39年9月

復興の記録

—36.6梅雨前線豪雨災害—

昭和39年8月31日 印刷

昭和39年9月17日 発行

編集発行 伊那谷36災害復興感謝祭事務局
長野県飯田市飯田上2534

印刷所 龍共印刷株式会社
長野県飯田市伝馬町1丁目